

14.5-187



1200501215156

14.5

187



始



28. 7. 8

14.5

187

畜産彙纂第九號

本邦内地
ニ於ケル

朝

鮮

牛

農林省畜産局

目次

第一 飼養ノ沿革及最近ニ於ケル分布状況並最近五箇年ニ於ケル地方別飼養頭數……………一

イ、飼養ノ沿革……………一

ロ、飼養頭數並分布状況……………一

第二 利用ノ現況……………三

第三 取引状況……………一八

第四 最近三箇年ニ於ケル朝鮮牛及其ノ他ノ役肉用牛ノ主要ナル仕出地及仕向地並年別移出入頭數
及一頭當平均價格……………二四

イ、朝鮮牛及其ノ他ノ役肉用牛ノ主要ナル仕出地及仕向地……………二六

ロ、朝鮮牛ノ移出入頭數……………二七

ハ、朝鮮牛一頭當平均價格……………二八

ニ、其ノ他ノ役肉用牛ノ移出入頭數……………二九

ホ、其ノ他ノ役肉用牛一頭當平均價格……………三〇

第五 最近三箇年ニ於ケル年別屠殺頭數……………三三

イ、年別屠殺頭數……………三三

二

口、大正十四年牛屠殺總頭數ニ對スル朝鮮牛屠殺頭數地方別比較……………三

第六 朝鮮牛ノ飼養力其ノ他ノ牛及他ノ家畜ノ生産飼育並利用ニ及ホシタル影響……………三

第七 朝鮮牛飼養ニ對スル道府縣其ノ他ノ團體ノ施設並經費豫算……………四

第八 朝鮮牛飼養ノ趨勢並地方當局ノ意見……………四

附 表

甲、朝鮮牛仕向地別移入頭數最近三箇年比較……………五

乙、大正十四年ニ於ケル移出港別及仕向地別朝鮮牛頭數……………六

丙、大正十四年地方別牛總頭數及乳用牛ヲ除キタル牛頭數ト朝鮮牛頭數トノ比較……………六

乙 圖表……………七

丙 圖表……………六

丁、大正十四年本邦内地ニ於ケル朝鮮牛ノ分布圖……………六

目 次 終

本邦内地ニ於ケル朝鮮牛

第一 飼養ノ沿革及最近ニ於ケル分布狀況並最近五箇年ニ於ケル地方別飼養頭數

飼養ノ沿革



本邦内地ニ於ケル朝鮮牛飼養ノ起原ハ審カナラサルモ住古ヨリ朝鮮トノ交通頻繁ナリシ地方ニ移植セラレタルハ諸種ノ史實ニ徴シテ明カナリ、今自ノ調査ニ依レハ慶長年間肥前平戸城主松浦鎮信公征韓ノ軍ニ從ヒ其ノ凱旋ニ當リ之ヲ移入シテ灌漑ニ貸與飼育セシメタルヲ以テ最古ノ記録トス、其ノ後明治初年ニ至ル迄ノ消息ハ不明ナルモ同時代ヨリ同二十年頃ノ間ハ佐賀、大分、香川、岡山、大阪、高知及愛媛等ノ地方ニ少數移入飼養セララルヲ見、次テ明治末期ニ亘リテハ山口、廣島、徳島、島根、兵庫、京都、和歌山、三重、埼玉及群馬ノ諸地方ニ飼養セラレ更ニ最近ニ至リテハ北海道、鳥取、熊本、宮崎、鹿兒島及沖繩ノ諸地方ヲ除キ全國ニ普及スルニ至レリ。

朝鮮牛ハ其ノ價格低廉ニシテ比較的用役ニ適シ飼養管理容易ナルニヨリ從來大家畜飼養ノ慣習ナク或ハ特ニ使役ヲ主トスル農家ニ歡迎セラルル處ナルモ偶々朝鮮牛移入業者ノ宣傳ハ其ノ普及ニ與テ力アリタルモノノ如シ。

地方別概況

北海道

該當事項ナシ。

青森

大正十二年中津輕郡清水村ニ移入飼養セラレタルヲ嚙矢トシ其ノ後西津輕、上北兩郡等ニモ少數宛移入飼養セラルルニ至レリ。

岩手

大正十四年少數ノ移入飼養ヲ見タルモ飼養後日淺ク分布極メテ少シ。

宮城

大正九年名取郡ニ少數移入飼養シタルモノアリ、其ノ後縣農會ノ購入斡旋、縣ニ於ケル農耕用牛ノ飼養獎勵等ニ依リ各郡市ニ飼育ヲ見ルニ至ル。

秋田

大正七年秋田市羽生氏熟執賀ヨリ五頭移入シ爾來平鹿、雄勝、鹿角、北秋田諸郡ニ少數移入飼養スルニ至レリ。

山形

大正八年南村山郡上山町高橋熊次郎五頭移入シ偶々馬匹骨軟症多發ノ打撃ハ耕牛ノ飼育ヲ希望スルモノ多ク漸次増加スルニ至レリ。

福島

大正七年六月双葉郡ニ於テ大倉畜産株式會社ヨリ購入飼育スルモノアリテ漸次頭數ヲ増加スルニ至リ、大正九年朝鮮牛飼育希望者相謀リ鮮牛普及會ヲ組織シ日支食料株式會社、南鮮牛共同移出組合、郡農會等ノ購入斡旋ニ依リ數次ノ移入ヲ見タルモ其ノ後經濟界ノ不況ハ飼育希望者ノ減少ヲ來シ爲ニ普及會ハ解散シ、且牛肺疫發生ノタメ移入スルモノナカリシカ近時再購入飼育ヲナスモノアリ。

茨城

大正三年眞壁郡ニ二十八頭購入飼養シ專開墾地ノ農家ニ使役シテ其ノ便利ナルヲ覺リ漸次普及スルニ至レリ、

縣ハ大正六年ヨリ共同購入斡旋、購入貸付、勸業基本金低利貸付等獎勵ニ努メタリ。

栃木

大正六年芳賀郡ニ於テ茨城縣ヨリ少數購入飼育スルモノアリ、爾來其ノ附近ニ頭數増加ヲ來シ大正九年縣農會ニテ縣勸業資金ノ融通ヲ受ケ共同購入ヲ斡旋シ又一方朝鮮牛移入會社ノ移入スルアリテ漸次普及増加セリ。

群馬

明治四十三年一府十四縣聯合共進會ニ於テ韓國興業株式會社カ參考品トシテ朝鮮牛ヲ出陳シ宣傳セルアリ偶々馬匹價格ノ騰貴ハ朝鮮牛ノ飼養ヲ増加スルニ至レリ。

埼玉

明治四十一年殖産會社設立セラレ朝鮮牛ヲ移入シタルモ當時畜牛ニ對スル知識乏シカリシタメ其ノ後全ク移入ヲ見ス、次テ縣ハ大正八年和牛ノ獎勵ト相俟テ朝鮮牛共同購入斡旋ヲナシ大正十年ヨリ購入獎勵金ノ交付ヲナス等獎勵セル結果著シク増加スルニ至レリ。

千葉

大正八年香取郡ニ於テ茨城縣ヨリ移入飼育ヲナシ爾後農耕用牛トシテ關西地方、朝鮮等ヨリ本縣各地ニ移入セラル。

東京

大正元年頃ニハ府下ニ何頭カノ朝鮮牛ヲ見タルモ盛ニ移入セララルルニ至リタルハ大正九年以降ニシテ爾來著シク増加セリ。

神奈川

大正七年以前ニハ殆ト朝鮮牛ノ飼養ヲ見サリシモ農耕、運搬等畜力利用ノ普及、共同購入ニ對シ獎勵金ノ交付、畜産會、郡市農會等ノ共同購入斡旋ニヨリ漸次増加セリ。

新潟

大正十年南鮮牛共同移出組合長來縣シ宣傳普及ニ努メ又縣ニ於テ預托農用牛規程ニヨリ耕牛ノ飼養ヲ獎勵セルタメ朝鮮牛ヲ移入スルニ至リ漸次増加セリ。

富山

農繁期ニ農耕牛馬不足ノ爲從來縣外ヨリ毎年八千餘頭ノ農馬ヲ借入レツツアリシカ之カ幾分ノ補充ヲナスト共ニ借入料金節減ノ目的ヲ以テ大正九年縣農會ニ於テ共同購入斡旋ヲナス所アリ、山間部或ハ小農家等ニハ相當成績ヲ收メツツアリ。

石川

大正五年金澤市中田米次郎肉用ノ目的ニテ移入シ又大正十一年頃ヨリ使役用ノ目的ニテ加賀地方ニ移入飼育セラル。

福井

大正七年十數頭移入セラレタルモ當初ハ肉附不良ニシテ晩熟性ナルト調教用語ノ異ナル爲使役上困難ヲ感シタルモ縣ハ無家畜農家ニ飼育ヲ獎勵シタル結果漸次増加スルニ至レリ。

山梨

大正九年北都留郡上野原町ニ於テ南鮮牛共同移出組合ヨリ十三頭購入飼育シ爾來牛馬商ニヨリ前記ノ組合ヨリ數次購入セリ、大正十二年縣農會ハ共同購入斡旋ヲナシ東洋畜産興業株式會社ト契約シ購入ヲ繼續シツツアリ。

長野

大正十年南鮮牛移出組合ヨリ數頭購入スルモノアリ、大正十一年縣農會ハ該組合ヲシテ縣下、二、三箇所ニ牛耕實演ヲ行ハシメタル結果漸次増加スルニ至レリ。

岐阜

飼養ノ起原ハ明カナラサルモ大正十一、二年頃ハ飼養頭數最モ多カリシカ漸次減少シ現今ニ於テハ少數殘留スルノミニシテ新ニ飼養スルモノ殆トナン。

静岡岡

大正四五年頃既ニ朝鮮牛ノ飼養ヲ見タリ、即チ富士郡ヨリ朝鮮ニ出稼セル人々ニヨリ該牛ハ農耕用ニ好適ナリトシテ送致シ來レルモノヲ飼育セルヲ嚆矢トスルモノノ如ク其ノ後漸次増加スルニ至レリ。

愛知

大正十年頃少數ノ移入ヲ見其ノ後豊橋方面並愛知郡ニ日支食料株式會社ノ朝鮮牛移入ト共ニ鮮牛宣傳隊カ農用牛トシテノ價値ヲ實地試演スル所アリ、一方豊橋家畜市場ハ朝鮮牛ノ移入ニ努メ漸次増加スルニ至レリ。

三重

明治四十四年飯南郡瀧本平太郎大阪府泉南郡家畜市場ヨリ十八頭購入シ其ノ後大正八年多氣郡ニ移入ヲ見次々名賀郡畜産組合ニ於テ共同購入斡旋ヲナシ漸次増加スルニ至レリ。

滋賀

大正十年敦賀ヨリ三百頭移入スルモノアリシカ當初ノ移入牛ハ飼養管理ノ失宜ニ依リ成績良好ナラス、又使役意ノ如クナラサリシ爲増加スルニ至ラス、其ノ後廣島、岡山、兵庫諸縣ヨリ一、二年内地ニ飼育シタルモノヲ移入飼育シ漸次良成績ヲ收メ除々ニ増加シツツアリ。

京都

明治四十年頃少數ノ移入ヲ見當初毛色外貌等一般ニ嗜好セラレサリシモ其ノ後大正三、四年頃ヨリ次第ニ増加シ一方敦賀ヨリノ移入開始セラルルヤ益々増加スルニ至レリ。

大阪

明治七、八年頃大阪市ニ移入ヲ見其ノ後少數ノ移入アリタルモ毛色上一般ノ氣受良シカラサリシカ明治三十三、三十四年山口縣ヨリ五百頭ヲ泉北郡ニ移入セルアリ、次テ日韓合併後朝鮮牛ハ安價ニシテ強健飼養管理比較的容易ナルヲ確知シ次第ニ其ノ數ヲ増加シ明治四十三年ニハ泉州家畜市場專朝鮮牛ノ移入ヲ試ミ大正八年大阪府農會ニ於テ共同購入斡旋ヲ爲シ爾來年ト共ニ其ノ數ヲ増加シ府下畜牛總數ノ五割餘ヲ占ムルニ至レリ。

兵庫

明治三十年頃西播地方ニ少數ノ移入ヲ見タルモ増加スルニ至ラサリシカ大正八、九年頃ヨリ急ニ飼養頭數ヲ増加シ但馬地方ヲ除ク各地ニ飼養セラレ現今縣下飼牛數ノ約三割餘ニ當レリ。

奈良

大正六年北葛城郡高田町ニ大阪府ヨリ數頭ノ移入アリテ以來同郡内ニ増加シ續テ大阪府近接ノ生駒郡ニ逐年移

入セラレ漸次各郡ニ普及スルニ至レリ、交通至便ナル平坦部ニ最モ多ク山間部ニハ比較的少シ。

和歌山

明治三十六年那賀郡ニ大阪府ヨリ移入飼育シタルヲ嚆矢トス、爾後逐年増加ヲ見タルモ明治四十一年牛疫發生ノタメ之カ移入中絶シタリシカ大正八、九年ニ至リ牛價暴騰ノ爲安價ナル朝鮮牛ヲ歡迎シ飼育者増加セリ。

鳥取

該當事項ナシ。

島根

明治初年移入セラレタリト言ヒ或ハ明治四十年頃縣内産牛ヲ「デヴォン」種ニテ改良セル當時無心ノ當業者ニヨリ誤認ノモトニ移入セラレタリト言フモ其ノ結果明カナラス、其ノ後大正七年頃ヨリ牛馬商ノ山口縣ヨリ之ヲ移入シ克ク宣傳セルモノアリ爲ニ漸次平坦部及鐵道沿線ニ増加スルニ至レリ。

岡山

明治二十年頃川上郡ノ商人二百餘頭ヲ移入シ其ノ後中絶シタリシカ明治四十年頃ニ至リ下關方面ヨリ移入シ價格低廉、使役上便利ナル爲一般ニ歡迎セラレ大正二、三年頃ニ至リ牛馬商共同シテ移入スルアリテ漸次飼養頭數ヲ増加セリ。

廣島

明治二十八年下關居住ノ牛馬商人朝鮮ヨリ十數頭ヲ移入シ其ノ後明治三十四年尾道市ニ於テ販賣セルヨリ漸次普及シ直移入ヲ企ツルモノ或ハ下關方面ヨリ購入スルモノアリテ増加スルニ至レリ。

山口

明治二十四、五年頃數頭移入シ其ノ後明治三十八、九年頃ヨリ漸次飼養者ヲ増加シ明治三十九年下關私設家畜市場開設セラレ朝鮮牛移入賣實行ハルルヤ飼養者頗ニ増加スルニ至レリ。

徳島

明治三十五年頃三好郡ニ於テ香川縣ヨリ移入セラレ二、三年ニシテ其ノ附近一般ニ飼養セラルルニ至リ明治四十年頃名東郡ノ牛馬商共同購入ヲナシタルモ體格倭小、肉質不良ナル爲成績良好ナラス一時飼養ヲ中止セルモ

ノアリタルモ大正四、五年ニ至リ再移入スルニ至レリ。

香川

明治二十年頃岡山、廣島兩縣ヨリ少數ノ移入アリ、其ノ後明治三十七八年頃ニ至リ牛價ノ暴騰ハ朝鮮牛ノ飼養ヲ増加シ次テ大正四、五年ニハ益其ノ需要ヲ増加スルニ至レリ。

愛媛

明治初年宇磨、温泉兩郡ニ尾道市附近ヨリ移入飼育セラレ明治十五年頃ニハ各地ニ點見セルモ褐色毛ノ嫌忌ニヨリ一般ニ普及スルニ至ラス、又牛疫ノ移入猖獗ヲ極ムルアリテ一時之カ飼養中止ヲ見タルモ明治三十年頃再尾道市、大分縣等ヨリ、大正元年頃ニハ直接原產地ヨリ移入シ又一方朝鮮牛ニ長期ノ肥育ヲ施シ肉牛トシテ東京、京都、大阪地方ニ販出スルニ至レリ。

高知

明治十二、三年頃九州方面ヨリ香美郡ニ移入セラレタルモ當初ハ朝鮮牛ニ類似セル豊後牛或ハ豊後牛ト朝鮮牛トノ雜種ヲ移入シタルモノノ如シ、明治二十九年直接原產地ヨリ移入スルモノアリテ漸次増加シ殊ニ近來小農カ馬匹ノ代用トシテ飼養スルモノ多キヲ加ヘタリ。

福岡

相當古クヨリ移入セラレタルモ事跡審カナラス、明治二十年頃ヨリ粕屋、宗像、鞍手諸郡ニ相當移入セラレ又明治三十八年ニ至リ朝鮮種牝牛ヲ移入蕃殖ニ供スル地方ヲ生シ使役用ノミナラス蕃殖兼用牝牛ノ移入亦次テ起レリ。

佐賀

明治初年頃東松浦郡ノ一部ニ飼養セルモノアリタリト言フ、爾來長崎縣ヨリ移入セラレタルモ毛色ヲ嗜好セサルト縣ハ改良和種ヲ獎勵セルタメ頭數漸次減少シ大正七、八年頃朝鮮牛ノ直移入ヲナシ普及ヲ企ツルモノアリシモ著シキ増加ヲ見ス。

長崎

往昔ヨリ朝鮮トノ交通頻繁ナリシヲ以テ肥前國ヲ中心トシ多數飼養セラレタルカ如シ、明確ナル事跡トシテハ慶長年間藩主松浦鎮信公之ヲ移入シ藩民ニ貸與飼育セシメタルコトアリ、明治十年頃ニハ相當移入アリシモ牛疫其ノ他ニヨリ著シキ増加ヲ見ス、明治四十二、三年頃ニハ縣下各地ニ飼養ヲ見ルニ至レルモ大正七、八年頃ヨリ頗ニ減少セリ。

熊本

該當事項ナシ。

大分

明治十五、六年北海道郡民出漁ニ際シ十數頭移入シタルヲ嚙矢トス、其ノ後年々四五百頭ノ移入アリシモ明治三十五、六年及明治四十年頃牛疫發生ノ爲普及増加スルニ至ラスシテ今日ニ及ヘリ。

宮崎

該當事項ナシ。

鹿兒島

該當事項ナシ。

沖繩

該當事項ナシ。

飼養頭數並分布狀況

本邦内地ニ於ケル朝鮮牛ノ飼養頭數ハ大正十四年末現在二十一萬四千餘頭ヲ算シ牛總頭數ノ一四・七%ニ當ル、而シテ之カ地方別飼養頭數ハ山口ノ三四、八七二頭ヲ以テ首位ヲ占メ兵庫(三三、六〇三頭)香川(二二、三六〇頭)大阪(一九、三二七頭)高知(一一、四〇一頭)茨城(七、九九二頭)埼玉(七、七三〇頭)福岡(七、七二五頭)廣島(七、六〇二頭)岡山(七、四七二頭)ノ諸地

方之ニ亞ク、尙之カ分布狀況ヲ觀ルニ概シテ瀬戸内海沿岸、關東平野、四國一圓、九州北部地方ニ密ニシテ東北、北陸地方ニ薄ク北海道、鳥取、熊本、宮崎、鹿兒島及沖繩ノ一道五縣ニ存在セス。
更ニ牛總頭數ニ對スル朝鮮牛頭數ノ割合ヲ地方別ニ觀レハ埼玉ノ七五・五%ハ最も多ク茨城(六七・八%)香川(六二・一%)大阪(五九・九%)山口(五二・九%)高知(五一・九%)神奈川(四八・三%)栃木(三七・四%)兵庫(三二・九%)東京(三二・九%)ノ諸地方之ニ亞ク。

地方別飼養頭數並分布狀況

廳府縣	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年	主要飼養地
北海道							中津輕、上北郡
青森					西	?	和賀、岩手、紫波郡
岩手			六	二〇	三〇	三五	名取郡
宮城	?	不詳	不詳	不詳	哭	?	平鹿、雄勝、北秋田郡
秋田	?	不詳	不詳	不詳	哭	?	西置賜、東村山、南村山郡
山形	一五	三四	五六	六六	八五	?	伊達、相馬、信夫、石城、北會津郡
福島	二〇	一六	二〇	四三	六〇	?	

高	愛	香	德	山	廣	岡	島	島	和	奈	兵	大	京	滋	三
知	媛	川	島	口	島	山	根	取	山	良	庫	阪	都	賀	重
?	六、〇三九	三、三六二	九〇三	三、四七四	五、七六	四、九四	?	六、七五	二、三七一	三、〇三四	一、四九〇	三、七〇	四、六八	?	?
九、五〇六	六、〇五四	二、四九七	一、一四四	三、四、五六九	六、〇四〇	不詳	五、〇五	七、〇七	二、八〇二	三、四七三	一、五、七九三	四、七〇	五、四	六	六
一〇、五三二	六、一三七	三、三六六	一、六九七	三、五、九七四	六、三六九	不詳	五、四一	七、〇七	三、四、三三	三、三、二九二	一、七、五八	五、四六	五、一	一〇、四	一〇、四
一、一、三三七	六、一六三	三、三、一九八	二、〇九〇	三、五、四、五〇	六、六、八〇	七、〇、四	五、〇三	七、九	四、〇、九五	三、三、七三	一、九、三七	六、九四	六、六五	一、三	一、三
一、一、四〇一	六、四六五	三、三、三六〇	二、一四七	三、四、八、七三	七、六〇二	七、四、七三	五、九	七、二	四、五、五	三、三、〇三	一、九、六三	九、〇三	七、二	三、八	三、八
一、一、七、五	?	?	?	?	?	?	四、九	?	?	?	?	?	?	一、五	一、五
安藝、香美、長岡郡	宇磨、新居、周葉郡	三豐、綾歌、香川、木田、仲多度郡	三好、板野郡	豐浦、玖珂、大津郡	賀茂、豊田、御調郡	邑久、赤盤、兒島郡	美濃、安濃郡	海草、那賀郡	北葛城、生駒、南葛城郡	東、神崎、加西、印南郡	揖保、飾磨、加古、赤穂、明石、加東、神崎、加西、印南郡	相樂、綴喜郡	蒲生、犬上、愛知、神崎郡	名賀、桑名、一志郡	?

愛	靜	岐	長	山	福	石	富	新	神	東	千	埼	群	栃	茨
知	岡	阜	野	梨	井	川	山	湯	川	京	葉	玉	馬	木	城
一、六	?	?	?	三	?	?	六	五、六	?	二、一、七三	一、四、五七	一、五、六	?	二〇〇	?
六、五二	三、五、二七	一、六〇	一、〇三	七	一、四、六	一、〇二	一、〇二	一、一、三五	?	三、四、九五	二、二、九	二、八、五七	三、五	三、〇〇	?
九、〇九	三、七、三	二、五〇	三、五、八	一、七	一、七二	二、四	二、八	一、六、六	四、一、七三	五、〇、〇五	四、三、九	四、六、七	七、二	五、〇〇	四、五、三
一、一、二	四、一、五	二、〇八	四、八、八	三〇一	一、七	一、五	一、九〇	三、四、三	四、九、六	五、七、六	五、一、八五	六、五、七	一、〇、三	七、七	六、四、一
一、七、三	五、一、五	一、五	六、六	三、六	三〇一	二、〇五	一、七	五、〇、一	六、六、五	六、〇、六	四、八、五	七、七、〇	一、三、二	八、二	七、九、二
?	?	二〇	六、七	?	三、五	二、四	?	?	?	?	?	?	一、八、五	?	?
渥美、愛知、八名郡	富士、志太、田方郡	安八、本巢、稻葉郡	東筑摩、下伊那、南佐久郡	東山梨、中巨摩、北巨摩、西山梨郡	大野、今立、阪井郡	能美、石川、鹿島郡、金澤市	西礪波、東礪波郡	北蒲原、中蒲原、西蒲原、南蒲原郡	高座、橋樹、都波郡	荏原、北豊島、南葛飾、南足立郡	東葛飾、香取、山武郡	北足立、入間、大里郡	邑樂、新田、佐波郡	下都賀、安藤、芳賀郡	稻敷、東茨城、行方、那珂、筑波、鹿島、結城郡

山形 專耕耘ニ用ヒ其ノ他輓曳、駄載、動力用ニ利用シ傍採肥ヲナス、蕃殖育成ヲナスモノ稀ナリ、使役後肥鹽ヲナスモノアレトモ肥鹽ノタメニ飼養スルモノナシ。

福島 農家ニアリテハ主トシテ耕耘ニ用ヒ市街地附近ニテハ運搬ニ用ユルモノアリ傍採肥ヲナス、移入妊牛ノ生産セラルモノアルモ蕃殖ヲ目的トシテ養フモノナク特ニ肥育ヲ施スコトナシ。

茨城 耕耘ニ用ヒ傍採肥ヲナス、深田ノ犁耕ハ最モ得意トスル所ナリ、農家ハ普通一箇年六十五日乃至百五十日使役ス脱穀精米等畜力原動機ニ用ヒ又荷車ノ輓用ニ供スルモノアリ、朝鮮牛ニ褐毛改良和種牡牛ヲ配シ蕃殖シ産牝ハ縣内ニ賣買セラル牡牝ハ去勢シ又使役ニ不適當ノモノハ牛馬商人ニ賣却シ牛馬商人ハ一箇月位肥鹽ヲ施シテ肉用トナス。

栃木 耕耘、運搬、採肥ニ用ヒ傍蕃殖育成ヲナスモノアレトモ其ノ數多カラス肥鹽ヲ行フモノ殆ト無シ。

群馬 耕耘、運搬ニ用ヒ傍採肥ヲナス、蕃殖、育成、肥鹽ヲ行フモノハ僅少ナリ、桑園ノ耕耘、中耕ハ好評ヲ博シツツアリ。

埼玉 耕耘、運搬ニ用ヒ傍採肥ヲナス、山間部地方ニハ蕃殖育成ヲ行フモノ多シ。

千葉 大部分ハ水田ノ耕耘ニ用ヒラルモ粘土質澤田地方ニハ適セサルモノノ如シ、農産物、肥料等ノ運搬ニモ用ヒ傍採肥ヲナス、僅ニ育成ヲ目的トスルモノアリ。

東京 牛耕ノ大部分ハ朝鮮牛ヲ用ユ、小牛車ノ制度ヲ設ケテヨリ朝鮮牛ヲ農産物、肥料等ノ運搬ニ利用スルモノ益増加セリ、蕃殖、育成、肥鹽等ハ未タ盛ナラス。

神奈川 主トシテ輓曳ニ用ヒ併テ耕耘、採肥ニ利用シ又蕃殖ニ供ス、未タ肥鹽ヲ行フモノナシ。

新潟 耕耘、運搬、採肥、肥鹽等ノ區別ナク各用途ニ利用ス。

富山 主トシテ耕耘ニ用ヒ又肥料、製材、薬工品等ノ運搬ニ使役シ傍採肥ヲナス、蕃殖育成ヲ行フモノナシ、二箇年位使役後肉牛トシテ賣却シ特ニ肥育スルコトナシ。

石川 專耕耘ニ用ヒ農閑期ハ運搬ニ用ユルモノアリ。

福井 耕耘ニ用ヒ傍採肥ヲナス又山間部ニテ木材等ノ運搬ニ六、七歳ノ牡牛ヲ供用ス。

山梨 朝鮮牛總頭數ノ約八割ハ耕耘ニ用ユルモ近時運搬ニ使役スルモノ増加スルニ至リ傍採肥ヲナスモノ其ノ他ノ目的ニテ飼養スルモノナシ。

長野 總頭數ノ約八割ハ耕耘ニ供セラレ其ノ他約一割五分ハ運搬用ニ使役セラル、僅ニ採肥専用又ハ蕃殖育成用ノモノアリ。

岐阜 單ニ耕耘、運搬ニ使役シ他ニ利用セス。

静岡 耕耘ノ傍運搬ノ用ニ供ス、其ノ他ノ用途ニ利用スルモノ極メテ稀ナリ。

愛知 主トシテ耕起、中耕、除草等ニ用ヒ運搬ニ使役スルモノ亦相當多ク傍採肥ヲナス。

三重 大半ハ運送業者ノ運搬ニ用ユ、蕃殖、育成、肥鹽等ニ用ヒ成績良好ナラス。

滋賀 耕耘、運搬、採肥、肥鹽等ノ兼用トシテ飼養セラル。

京都 耕耘ニ用ユル傍採肥ヲナス又運搬、輓用トシテ使役スルモノ多シ、特ニ育成及肥鹽ヲ試ミルモノナク使役中漸

次肉附ヲ改善ス。

大阪 專運搬及耕耘用ニ飼養セラル。

兵庫 大部分ハ耕耘ニ用ユ、木、石材及穀類等ノ運搬ニ用ユルモノアリ、傍採肥ヲナス、移入妊牛ノ生産セル犢ヲ育成スルモノアレトモ多クハ直ニ肉用犢トシテ賣却ス、使役後肥育用ニ供セラルルモノ頗ル多シ。

奈良 約六割ハ耕耘ニ、約三割ハ運搬ニ、約一割ハ採肥用ニ飼養ス。

和歌山 農家飼養ノモノハ農耕、採肥ノ傍肥臘ヲ施シ半年乃至一箇年ニテ賣却シ其ノ他ハ牛車用ニ供シ、二年間ニテ賣却ス。

鳥取 該當事項ナシ。

岡山 主トシテ農家ニ於テ耕耘、運搬、採肥ニ兼用ス。

廣島 主トシテ耕耘、採肥ニ用ヒ運搬専用ノモノハ少數ナリ、南部地方ニテハ使役後肥育シテ京阪地方ニ移出ス。

山口 專耕耘、採肥ニ利用シ運搬ニ使用スルモノ肥臘ヲ行フモノ之ニ亞ク。

徳島 主トシテ耕耘ニ用ヒ其ノ他輕駄用、牛車用ニ使役シ採肥ノミノ目的ニテ飼養スルモノナシ、使役ノ傍蕃殖ヲ行フモノアレトモ極メテ少シ、移入妊牛ノ生産犢ハ六箇月内外迄育成シ賣却ス、使役後肥臘ヲ行フモノ多ク成績良好ナリ。

香川 耕耘ニ用ヒ又牛車ニ使役スルモノ尠カラス蕃殖ハ移入妊牛ノ生産犢アルノミナリ。

愛媛 約八割ハ耕耘ヲ主トシ採肥、肥臘ヲ副目的トシ二割ハ運搬用トス、改良和種牡牛ヲ配シ蕃殖ヲナスモノアリ、使役後肥臘ヲ行ヒ成績良好ナリ。

高知 耕耘ノ傍採肥ヲナス安藝及香美兩郡ニテハ蕃殖、吾川、土佐、高岡方面ニハ育成盛ナリ、平坦部ニ對シ貸貸行ハル使役後肥臘シテ阪神地方ニ販出ス。

福岡 大部分耕耘ノ傍採肥シ又運搬ニ供スルモノ専用ノモノ少シ縣下朝鮮種牡牛ハ二十頭ヲ算シ、蕃殖育成行ハレ朝鮮牛及其ノ雜種ノ生産ハ全産犢ノ一四・〇%ニ達ス。

佐賀 耕耘兼運搬ハ約七割、耕耘専用ハ二割、運搬専用ハ一割ノ見當ナリ。

長崎 主トシテ使役ヲ目的トスル地方ニテ耕耘、運搬、採肥ニ利用セラレ特ニ肥育ヲ行ハスト雖牡ニ去勢ヲ行ヒ肥臘性ヲ促進セシムルコトアリ、對馬ニテハ蕃殖ヲ行フ。

熊本 該當事項ナシ。

大分 採肥ヲ主トシ輕微ノ農役ニ供シツツ飼立ヲナン肉牛トシテ販賣シ耕耘、運搬ニハ普ク利用サレス、偶々蕃殖ヲナスモノアルモ成績不良ナリ。

宮崎 該當事項ナシ。

鹿兒島 該當事項ナシ。

沖繩 該當事項ナシ。

第三、取引状況

當初ハ在鮮移出入商又ハ會社カ直接内地需要地ニ出張所、繋留場等ヲ設ケ取引シタルモノ尠カラサリシモ現今ハ宮城、福島、新潟及奈良諸地方ニ於テ之等ノ機關存スルニ過キス、奥羽、關東、中部地方ノ如ク從來畜牛ノ分布薄ク養牛ノ習慣新ナル地方ニテハ主トシテ農會次テ縣及畜産組合等ノ斡旋ニ依リ原產地ニ於ケル朝鮮牛ノ移出會社、組合及商人等ヨリ共同購買ヲナスモノ多ク而シテ其ノ方法ハ詳細ナル報告ヲ缺クモ斡旋者ニ於テ豫メ購入時期、動物ノ年齢、體尺、豫定價格等ヲ示シテ希望者ヲ募リ申込保證金ヲ徴シ供給者ヨリ動物ヲ納入セシメ抽籤ニ依リ希望者ヘ引渡シタル後代金ヲ徴收スルモノ多ク、又引渡後一箇月以内ニ斃死シ又ハ使役ニ耐ヘサルモノハ斡旋者ニ於テ無償交換ヲ爲ス等ノ便ヲ圖ルモノアリ。

上記地方ノ外ハ商人カ移入シタルモノヲ移入者自ラ直接需要者ニ供給シ或ハ牛馬商ヲ介シテ農家ニ賣却ス、其ノ賣買交換等ノ取引方法ハ從來ノ内地牛取引ノ場合ト異ル所ナシ。

本調査ノ報告中朝鮮牛ノ移出入ヲ取扱フ團體ヲ列記スレハ左ノ如シ。

- 南鮮牛共同移出組合 大倉畜産株式会社 東洋畜産株式会社
- 日支食料株式会社 敦賀鮮牛移入組合 大日本農畜産株式会社

地方別概況

北海道 該當事項ナシ。

青森 中津輕、西津輕兩郡ノモノハ山形縣ヲ經テ仲買商人之ヲ移入シ上北郡ノモノハ藤板村相板原農業共同組合カ釜山鎮南鮮牛共同移出組合ヨリ直接購入セルモノナリ。

岩手 特ニ取引機關ナク其ノ都度農會其ノ他ノ團體ニ於テ便宜購入斡旋ヲナス。

宮城 取引機關トシテハ朝鮮牛販賣業者ノ繋留販賣所アリ、取引方法ハ農會ノ購入斡旋ニ依ルノ外ハ商人トノ直接取引ナリ。

秋田 個人取引ノミナリ。

山形 購入ハ原產地又ハ下關家畜市場或ハ東京等ノ移入業者ヨリ縣、畜産組合或ハ郡市農會等ノ斡旋又ハ牛馬商人ノ仲介ニ依ル、販賣ハ共同販賣ヲナスモノアルモ多クハ地方商人ノ仲介ニ依リ或ハ驪市ニテ販賣ス。

福島 會社ニテ販賣所ヲ設ケ出張販賣スルモノアリ、其ノ他ハ郡、町村農會等ノ斡旋ニ依リ直接購入セラレ或ハ商人ノ手ヲ經テ販賣セラレ。

茨城 商人、會社等ニ依リ取引セラレ又ハ縣、郡農會等ノ共同購入斡旋ニ依リ取引セラレ、其ノ方法ハ斡旋者ニ於テ豫メ購入時期、年齢、體尺、豫定價格等ヲ示シテ希望者ヲ募リ申込保證金ヲ徴シテ取引會社或ハ個人ヨリ動物ヲ納入セシメ動物引渡後代金ヲ徴收ス、個人賣買ハ多ク現金取引ナルモ中ニハ年賦法ニヨリ或ハ交換賣買ヲナス。

栃木 當初ハ茨城縣ノ飼育者ヨリ次テ下關家畜市場ニテ購入セシモノアリ、其ノ後縣農會ハ大倉、東洋兩畜産株式會社ノ移入セルモノニ付購入斡旋ヲナシ其ノ他個人購買ノモノハ前記會社又ハ商人ヨリ購入シ、原產地ヨリ直接

購入ノモノナシ。

群馬 當初ハ東京或ハ在鮮當業者ノ出張員ヨリ直接購入シタルモ大正十年以降多クハ郡農會、畜産組合聯合會等ニ於テ在鮮畜産組合其ノ他ヲ介シ共同購入斡旋ヲナシツツアリ。

埼玉 大多數ハ牛馬商人ニヨリ取引セラルルモ會社ヲ通シ縣及郡農會ノ共同購入ニ依ルモノアリ。

千葉 主トシテ牛馬商人ノ手ニヨリ取引セラレ其ノ他縣及郡農會ニ於テ購入斡旋ヲナス。

東京 會社又ハ個人等ノ牛馬賣買業者カ朝鮮ヨリ移入シ一般需要者ニ供給シ其ノ後ハ商人ニヨリ隨所ニ轉賣交換セララル、主ナル移入商ハ東洋畜産興業株式會社、日支食料株式會社（現在ハナシ）及中野龜次郎等ナリ。

神奈川 當初ハ日支食料株式會社等ノ臨時販賣市場ノ開催アリシモ近時ハ下關家畜市場其ノ他ヨリ牛馬商ヲ經テ取引セラル、又縣畜産會、郡農會等ニテ直接原產地ヨリ共同購入斡旋ヲナス、共同購入ハ凡テ代金ヲ豫納セシメ現金

新潟 取引ヲナスモ其ノ他ノ取引ハ延取引又ハ交換ニ依ルモノ多シ。

富山 直江津町農畜産株式會社、南鮮牛共同移出組合出張所等ノ販賣斡旋機關アリテ農家又ハ營業者ニ相對賣買ヲナス。

石川 縣農會ニ於テ購入斡旋ヲナシ豫メ購入希望者ヲ募リ直接渡鮮或ハ信用アル在鮮當業者ヨリ見積書ヲ取り委託購買ヲナス。

福井 各郡農會ニ於テ購入斡旋ヲナシ又金澤市中田鮮牛移入部ヨリ各農家ニ或ル期間無償貸付シ後之ヲ返還セシメツツアリ。

山梨 敦賀家畜市場、敦賀鮮牛移入商組合、元南鮮牛移出組合及敦賀町附近ノ商人其ノ他ニ依リ相對及委託賣買ヲナス。

長野 當初ハ南鮮牛共同移出組合ノ手ヲ經タルモ現今縣農會ハ東洋畜産興業株式會社ヲ仲介者トシ希望頭數ヲ會社ニ通達シ現物到着ノ上抽籤ヲ以テ代金引換ニ農家ニ引渡ス而シテ一箇月以内ニ於テ斃死シ又ハ使役ニ耐ヘサルモノハ縣農會ニ於テ無償交換ヲナス、牛馬商人ニ依リ購入セラルルモノハ約二割見當ナリ。

岐阜 日本農畜産株式會社、或ハ商人、杭瀬下村農會等ニ依リ移入セラル。

静岡 當初ハ南鮮牛移出組合其ノ他ニ依リ移入セラレタルモ現今ハ移入ヲ見ス。取引ハ普通ノ方法ニ依ル。

愛知 特殊ノ移入商、畜産組合及農會等ノ共同購入ニ依ルモノ多ク個人取引ヲナスモノ少シ。

三重 朝鮮牛商人カ豊橋家畜市場ニ移入シタルモノヲ農家カ購入ス。

滋賀 特定ノ取引機關ナク單ニ家畜市場ニ於ケル普通取引ニヨル。

京都 特別ナル取引機關ナク縣内外ノ牛馬商ヲ經テ家畜市場ニ入り更ニ牛馬商ヲ經テ農家ニ飼養サル。

大阪 特殊ノ取引機關ナシ、地方牛馬商人ニ依リ賣買交換セラルルニ止ル、近年ニ至リ日本農畜産株式會社ニ依リ園部町家畜市場ニ移入セラレシモ成績良好ナラス。

數年前ハ東洋畜産株式會社ノ委託契約ノ下ニ移入シタルコトアルモ現今ニ於テハ特ニ記載ス可キ機關ナシ、原産地下直接取引ヲナスモノ大部分ヲ占ム、即チ朝鮮在住ノ商人ヨリ本府商人宛ニ牛ヲ移送シ來リ代金ハ賣却後送付ス、其ノ他下關市、廣島縣、福井縣等ヨリ購入スルモノアルモ稀ナリ、肉牛（朝鮮牛）ハ各府縣ヨリ專販

南家畜市場ニ直接又ハ委託ニ依リ本府屠畜營業者ニ賣却ス。

兵庫 移入商人カ直移入セルモノ及牛馬商カ下關市、尾道市、香川縣等ノ家畜市場ヲ經テ移入セルモノヲ更ニ縣内家畜市場、牛馬商等ニ依リ賣買交換セラル。

奈良 大正十四年ヨリ奈良市在大日本農畜産株式會社支店ニ於テ朝鮮牛ノ取引ヲナセルモ未タ豫期ノ成績ヲ見ルニ至ラス、牛馬商ニ依リ堺家畜市場ヲ經由シ取引セリ。又春秋二期牛馬商渡鮮購入シ南葛城、北葛城兩郡ノ常設家畜市場ニ入場セシメ賣買取引ス。

和歌山 特別ナル取引機關ナク其ノ方法モ在來ノ和牛取引ト異ラス。
鳥取 該當事項ナシ。

島根 家畜市場ニ依ルモノ又ハ隨意賣買、交換取引ニ依ルモノトス。
岡山 牛馬商ニ依リ原産地或ハ他府縣ヨリ移入セラレタルモノヲ普通ノ方法ニ依リ取引ス。

廣島 直移入業者ニ依リ販賣セラル。
山口 特ニ朝鮮牛ノ取引機關ナキモ下關、太田、三輪等ノ家畜市場ニ入場セルモノヲ購入シ肥臘ヲ施シタルモノハ肉牛共同販賣又ハ上記家畜市場ニ於テ賣買交換セラル。

徳島 特別ナル取引機關ナク一般牛馬ノ取引ト同様ナリ、多クハ香川縣ノ牛馬商カ朝鮮ヨリ移入シタルモノヲ飼育者自ラ購入シ或ハ縣内牛馬商ヲ介シテ之ヲ購入ス。
香川 商人カ尾道、下關市場ヲ經或ハ直接原産地ヨリ移入シタルモノヲ縣内牛馬商ヲ介シ或ハ直接飼育者ト取引ス。

愛媛 特設ノ取引機關ナク取引ハ牛馬商ニ依リ行ハル。
高知 牛馬商カ直接渡鮮或ハ通信ニ依リ購入シタルモノヲ郡畜産組合及家畜市場等ニテ糶賣、入札其ノ他仲介者ニ依リ現金若ハ一定期限貸借ノ契約ニ基キ賣却ス。

福岡 特別ノ取引機關ナク概ネ下關家畜市場ニ移入サレタルモノヲ牛馬商カ農家ノ委託ヲ受ケ或ハ自ラ購買シテ農家ニ賣込ムヲ普通トス。

佐賀 概ネ牛馬商ニ依リ取引セラル往々常設家畜市場ニ於テ賣買セラルモノアリ。
長崎 對馬ハ檢疫所アルヲ以テ直移入セラル、同地經由ノ上、下關、九州地方ニ轉送セラルル多數ノ中佐賀縣伊萬里市場ヲ經テ縣下使役地方ノ市場ニ分布セラルルモ其ノ數僅少ナリ。

熊本 該當事項ナシ。
大分 特別ナル取引機關ナク鮮牛移入商ト飼養者トノ間ニ自由ニ賣買交換セラル。
宮崎 該當事項ナシ。

鹿兒島 該當事項ナシ。
沖繩 該當事項ナシ。

第四、最近三箇年ニ於ケル朝鮮牛及其ノ他ノ役肉用牛ノ主要ナル仕出地及仕向地 並年別移出入頭數及一頭當平均價格

大正十四年ニ於ケル朝鮮牛ノ内地移出ハ釜山ヨリスルモノ 三〇、八三〇頭ヲ最多トシ即チ移出總頭數ノ約六割ヲ占メ、仁川ノ六、五八四頭、元山ノ六、三〇九頭、鎮南浦ノ四、二一六頭、城津ノ一、九八八頭、及清津ノ五九三頭之ニ亞キ、木浦、濟州島ヨリスルモノハ夫々一七頭及七頭ニ過キス。

内地移入港トシテハ門司ノ四三、九七八頭ヲ最多トシ即チ移入頭數ノ約九割ニ當リ、敦賀ノ五、七七七頭、長崎ノ三三二二頭、神戸ノ二九二頭、嚴原ノ一七一頭之ニ亞キ、大阪ハ僅ニ七頭ナリ、而シテ移出入ノ經路關係ヲ見ルトキハ門司ニ入ルモノノ中最モ多數ヲ占ムルハ釜山ヨリ移出スルモノニシテ仁川、鎮南浦之ニ亞キ、敦賀ニ入ルモノハ元山ヲ主トシ城津、清津之ニ亞ク、地方農家ハ直接上記移入港或ハ其ノ附近ノ市場ヨリ供給セラレ又ハ他地方ニテ育成セラレタルモノヲ購入ス、用役後ハ阪神、京濱、其ノ他地方消費地ニ肉牛トシテ仕向ケラル。

朝鮮牛及其ノ他ノ役肉用牛ノ内地各府縣間ノ移出入ハ之ヲ明確ニ分類區別スル事困難ナルモ、今移出地及移入地ノ主ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ。

朝鮮牛

肉用	移出地	兵庫、山口、香川、岡山、愛媛
	移入地	東京、大阪、兵庫、神奈川、京都

其ノ他	移出地	山口、香川、廣島、愛媛、福井
	移入地	山口、兵庫、香川、廣島、岡山

朝鮮牛以外ノ役肉用牛

肉用	移出地	愛媛、兵庫、長崎、山口、香川
	移入地	大阪、東京、福岡、愛媛、佐賀

其ノ他	移出地	岡山、山口、大分、鳥取、廣島
	移入地	京都、滋賀、大阪、廣島、岡山

尙畜牛頭數ノ比較的稀薄ナル關東地方ニ於テハ茨城、千葉及埼玉ハ主ナル移入地ナリ。
而シテ大正十四年ニ於ケル朝鮮牛及其ノ他ノ役肉用牛ノ一頭當平均價格ヲ示セハ左ノ如シ。

新	新	富	石	福	山	長	岐	靜	愛	三	滋	京	大
湯	山	川	井	梨	野	阜	岡	知	重	賀	都	阪	阪
朝鮮、千葉、神奈川、敦賀、兵	朝鮮、石川、福井	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮、東京、長崎	朝鮮、福井	京都、兵庫、鳥取、島根、岡山、廣島	福井、大阪、兵庫	朝鮮、福井、兵庫、岡山、廣島、山口、高知、大分、其、他	朝鮮、山口、高知
富山	富山	富山	富山	富山	富山	富山	富山	東京	愛知	東京、神奈川、兵庫、岡山、近府縣	大阪、其、他	奈良、其、他	奈良、其、他
島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	東京	愛知	東京、神奈川、兵庫、岡山、近府縣	大阪、其、他	奈良、其、他	奈良、其、他
千葉、東京、神奈川、兵庫	東京、岐阜、愛知、三重、滋賀	東京、岐阜、愛知、三重、滋賀	東京、岐阜、愛知、三重、滋賀	東京、岐阜、愛知、三重、滋賀	東京、岐阜、愛知、三重、滋賀	東京、岐阜、愛知、三重、滋賀	東京、岐阜、愛知、三重、滋賀	東京	愛知	東京、神奈川、兵庫、岡山、近府縣	大阪、其、他	奈良、其、他	奈良、其、他

兵	奈	和	鳥	島	岡	廣	山	德	香	愛	高	福	佐
庫	良	歌	取	根	山	島	口	島	川	媛	知	岡	賀
岡山、廣島、山口、香川、愛媛	朝鮮、大阪	三、滋賀、京都、大阪、兵	該當事項ナシ	山口	朝鮮、廣島、山口	朝鮮	朝鮮	香川、高知	朝鮮、廣島、山口	朝鮮、中國、九州	朝鮮	山口	福岡、長崎
東京、靜岡、滋賀、京都、大阪	三、滋賀、大阪、兵庫、奈良	三、滋賀、大阪、兵庫、奈良	京都、山口	京都、山口	東京、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良	茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、石川、福井、京都、大阪、兵庫、岡山、愛媛、高知	東京、京都、大阪、島根、廣島	東京、大阪、兵庫、岡山、德島、愛媛	東京、大阪、兵庫、德島、香川、高知	東京、大阪、兵庫、德島、香川、高知	中國、九州地方	中國地方	廣島、福岡
京都、大阪、和歌山、鳥取、島根、岡山、山口、香川、愛媛	三重、兵庫、鳥取、岡山	三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良	島根、岡山、廣島	廣島、山口	愛知、京都、兵庫、奈良、鳥取、島根、廣島、香川	島根、岡山、山口、香川、愛媛、福岡、熊本、大分、宮崎、鹿兒島	鳥取、島根	兵庫、岡山、廣島、香川、高知	岡山、廣島、德島、大分	中國、九州地方	愛媛	長崎、熊本、大分、宮崎、鹿兒島	鳥取、長崎、大分
靜岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、和歌山、德島	京都、大阪、和歌山	三重、滋賀、大阪、兵庫	宮城、山形、東京、神奈川、富山、石川、靜岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良	東京、福井、愛知、三重、京都、大阪、兵庫	愛知、京都、大阪、兵庫、奈良、鳥取、島根、廣島、香川	茨城、東京、神奈川、新潟、石川、靜岡、三重、滋賀、京都、大阪、愛媛、香川	東京、京都、大阪、廣島	大阪、兵庫、香川、愛媛	東京、大阪、德島、愛媛	東京、大阪、兵庫、德島、香川、高知	大阪、兵庫、愛媛	京都、大阪、中國地方	東京、兵庫、廣島、福岡、長崎

6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 5

朝鮮牛ノ移出入頭數

府縣	肉				牛				其				他			
	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出
北海道																
青森																
岩手																
宮城																
秋田																
山形																
福島																
茨城																
栃木																
群馬																
埼玉																
千葉																
東京																
神奈川																
新潟																
富山																
石川																
福井																
山梨																
長野																
岐阜																
静岡																
愛知																
三重																
滋賀																
京都																
大阪																
兵庫																
奈良																
和歌山																
鳥取																
島根																
岡山																
広島																
山口																
徳島																
香川																
愛媛																
高知																
福岡																
佐賀																
長崎																
熊本																
大分																
宮崎																
鹿児島																
沖縄																
府縣																

備考 表中事實無キモノハ「」ヲ附セリ愛知、滋賀、兵庫、大分ハ大正十一、十二、十三年ノ數ナリ

八、朝鮮牛一頭當平均價格 (單位圓)

應府縣	肉				牛				其				他			
	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出
北海道																
青森																
岩手																
宮城																
秋田																
山形																
福島																
茨城																
栃木																
群馬																
埼玉																
千葉																
東京																
神奈川																
新潟																
富山																
石川																
福井																
山梨																
長野																
岐阜																
静岡																
愛知																
三重																
滋賀																
京都																
大阪																
兵庫																
奈良																
和歌山																
鳥取																
島根																
岡山																
広島																
山口																
徳島																
香川																
愛媛																
高知																
福岡																
佐賀																
長崎																
熊本																
大分																
宮崎																
鹿児島																
沖縄																

備考 表中事實無キモノハ「」ヲ附セリ、愛知、滋賀、兵庫、大分ハ大正十一、十二、十三年ノ數ナリ

二、其ノ他ノ役肉用牛ノ移出入頭數

廳府縣	肉				牛				其				他			
	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出
北海道																
青森		1,013														
岩手		7,481														
宮城																
秋田		2,100														
山形																
福島																
茨城																
栃木																
群馬																
埼玉																
千葉																
東京		8,095														
神奈川		2,740														
新潟																
富山																
石川																
福井																
山梨																
長野																
岐阜																
静岡																
愛知																
三重																
滋賀																
京都																
大阪																
兵庫																
奈良																
和歌山																
鳥取																
島根																
岡山																
広島																
山口																
徳島																
香川																
愛媛																
高知																
福岡																
佐賀																
長門																
熊本																
大分																
宮崎																
鹿児島																
沖縄																
總計																

備考 表中事實無キモノハ「」ヲ附セリ愛知、滋賀、兵庫、大分ハ大正十一、十二、十三年ノ數ナリ

ホ、其ノ他ノ役肉用牛一頭當平均價格 (單位圓)

廳府縣	肉				牛				其ノ				他			
	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出
北海道																
青森																
岩手																
宮城																
秋田																
山形																
福島																
茨城																
栃木																
群馬																
埼玉																
千葉																
東京																
神奈川																
新潟																
富山																
石川																
福井																
山梨																
長野																
岐阜																
静岡																
愛知																
三重																
滋賀																
京都																
大阪																
兵庫																
奈良																
和歌山																
鳥取																
島根																
岡山																
広島																
山口																
徳島																
香川																
愛媛																
高知																
福岡																
佐賀																
長崎																
熊本																
大分																
宮崎																
鹿児島																
沖縄																
神奈川																

備考 表中事實無キモノハ「」ヲ附セリ愛知、滋賀、兵庫、大分ハ大正十一、十二、十三年ノ數ナリ

大正十二、三年ハ大正十四年ト大差ナキ見込

大正十二、三年ハ大正十四年ト大差ナキ見込

大正十二、三年ハ不詳

第五、最近三箇年ニ於ケル年別屠殺頭數

本邦内地ニ於ケル朝鮮牛ノ屠殺頭數ハ年々七萬頭ヲ超エ、大正十四年ニ於テハ兵庫ノ二一、九九七頭ヲ首位トシ大阪(一五、四八二頭)東京(八、九三〇頭)岡山(三、五八四頭)京都(二、八六〇頭)神奈川(二、五四六頭)奈良(二、四八八頭)高知(二、三二四頭)廣島(二、一七〇頭)山口(一、九六六頭)香川(一、六〇二頭)福岡(一、二〇九頭)ノ諸地方之ニ亞キ何レモ一千頭ヲ下ラス、而シテ各地方ニ於ル朝鮮牛ノ屠牛總頭數ニ對スル割合ハ兵庫及高知ハ七割、奈良、岡山及香川ハ四割ヲ超エ、全國ヲ通シテ二割強ニ當ルヲ見ル。

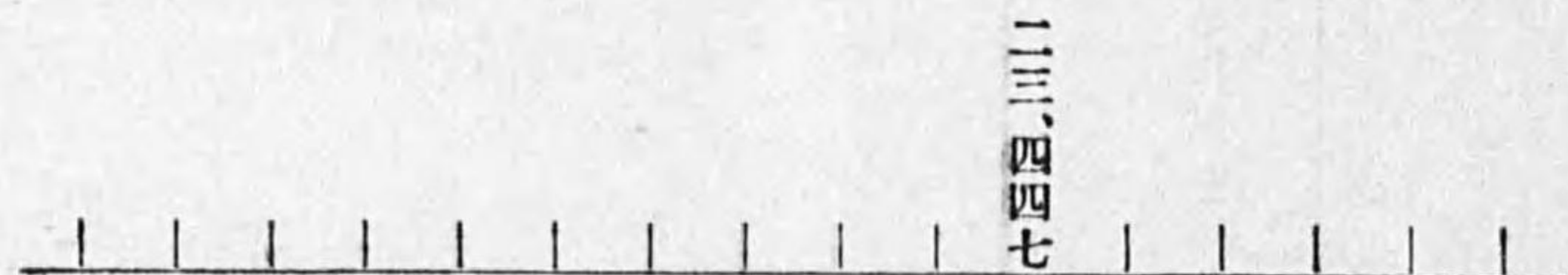
イ 年別屠殺頭數

廳府縣	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年
北海道					
青森					
岩手					
宮城					
秋田					
山形					
合計		七	一三	三一	三五

愛 香 德 山 廣 岡 島 島 和 奈 兵 大 京 滋 三 愛

歌

媛 川 島 口 島 山 根 取 山 良 庫 阪 都 賀 重 知



二九五 一四 九七 二一〇〇 一五、四六二 二二、七二二 一、八二七 三三九 二、九四二 二、五六七 一、九三〇 三五 一、三五八 七六七

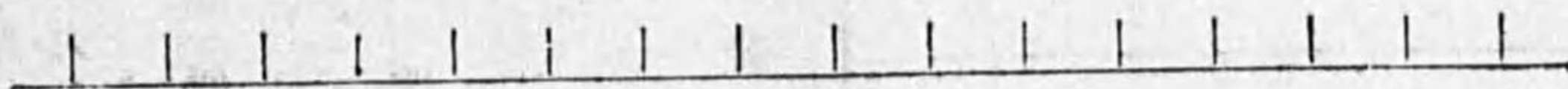
三三一 一八 一二二 二、〇一五 一六、〇一四 二二、九九七 二、一二三 三三五 三、六八三 二、五〇〇 一、八〇三 四八 一、六一二 八〇六

三三一 一五 一五三 二、八六〇 一五、四八二 二二、九九七 二、四八八 四四一 三、五八四 二、一七〇 一、九六六 五六 一、六〇二 八一四

靜 岐 長 山 福 石 富 新 神 東 千 埼 群 枳 茨 福

奈

岡 阜 野 梨 井 川 山 湯 川 京 葉 玉 馬 木 城 島



二九五 二〇 一〇 七 四二 二五七 六〇 四〇 二、七〇九 九、六四九 三〇 三〇〇 二〇八 二八 八三 二六

七二六 八二 一〇 一四 五二 三二七 七五 五五 二、七八四 九、一五一 三〇 三〇〇 一七四 一九八 一五

五七六 五五 一〇 三七 五九 四一〇 九〇 七八 二、五四六 八、九三〇 三〇 三〇〇 二三五 二五 二六七 一六 三三

青	岩	宮	秋	山	福	茨	栃	群	埼	千	東	神	新	富	石
森	手	城	田	形	島	城	木	馬	玉	葉	京	川	湯	山	川
一、三三一	八〇四	一、一一九	一、一〇二	一、七九一	一、二三八	八三二	九一六	一、四七一	一、六六〇	九七六	四〇、一二〇	八、九五九	二、九一三	七七〇	二、七七六
一、三三四	一、三三四	一、六六一	三〇	一八	一六	二六七	二五	二三五	三〇〇	三〇	八、九三〇	二、五四六	七八	九〇	四一〇
二七	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	三三・一	二・七	一五・九	一八・一	三・一	二二・三	二八・四	二・七	一一・七	一四・八

備考 表中事實無キモノニハ「」ヲ附セリ、兵庫、高知ハ大正十四年數不明ニ付大正十三年ノ數ヲ用ヒタリ。

大正十四年牛屠殺總頭數ニ對スル朝鮮牛屠殺頭數地方別比較

北海道	廳府縣	牛屠殺總頭數	朝鮮牛屠殺頭數	牛屠殺總頭數ニ對スル朝鮮牛屠殺頭數ノ割合(%)
七、五四六				
高知	高知	二、三八一	二、三三四	一一・三三四
福岡	福岡	一、五九五	一、六六一	一、二〇九
佐賀	佐賀	三五六	三七〇	三六六
熊本	熊本	六九	二二五	九七
大分	大分	六九、四九六	七二、〇二八	七一、六六七
宮崎	宮崎			
鹿兒島	鹿兒島			
沖繩	沖繩			
合計				

備考 表中事實無キモノニハ「」ヲ附セリ、兵庫、高知ハ大正十三年ノ數ニ對スル割合ナリ。

廣	山	徳	香	愛	高	福	佐	長	熊	大	宮	鹿	沖	合
島	口	島	川	媛	知	岡	賀	崎	本	分	崎	島	繩	計
二七、六六二	五、七四一	三、三〇三	三、九八二	七、〇五〇	三、三二〇	一一、六九〇	四、一〇五	三、九九二	五、四四六	六、二五三	三、九八五	八、五八二	二、七五八	三二八、三一〇
二、一七〇	一、九六六	五六	一、六〇二	八一四	二、三二四	一、二〇九				九七				七一、三〇一
六・七	三四・二	一・七	四〇・五	一一・五	七〇・〇	九・五					一・六			一二・四

福山長岐静愛三滋京大兵奈和島鳥岡

歌

井梨野阜岡知重賀都阪庫良山取根山

一、六〇二	八六八	二、一三五	二、九一五	四、四九二	九、七四四	五、七六四	四、三三〇	一九、七六三	四〇、八四八	二八、九九七	五、一七二	五、三五七	二、三九八	二、九一八	八、四一五
五九	三七	一〇	五五	五七六	三三一	一五	一五三	二、八六〇	一五、四八二	二一、九九七	二、四八八	四四一			三、五八四
三・七	四・三	〇・四	一・九	一三・〇	三・三	〇・二	三・五	一四・四	三七・九	七五・九	四八・三	八・二			四二・六

第六、朝鮮牛ノ飼養カ其ノ他ノ牛及他ノ家畜ノ生産飼育並利用ニ及ホシタル影響

朝鮮牛ノ飼養カ他ノ家畜ニ及ホシタル影響ハ之ヲ全國的ニ見レハ主トシテ之ト用途ヲ同シフスル使役地方ニ於ケル馬匹ノ減少ヲ來シタルコト最モ著シク、次テ改良和種系ノ使役牛ノ飼養頭數ニ漸次減少ノ傾向ヲ與ヘタリ。然レトモ未タ之等牛馬ノ生産ニ影響ヲ及ホシタル地方ハ尠ク唯將來各地方ノ生産牛馬ノ仕向利用地ニ多數ノ朝鮮牛移入セラルルニ至ラハ價格ノ關係上其ノ生産ニ對シ惡影響ヲ齎スヘント憂慮セラルル地方アリ。

而シテ一方朝鮮牛ノ飼養カ乳牛或ハ改良和種牛等ノ飼養ノ動機トナリタル地方モアリ、其ノ他ノ家畜ニ對シテハ僅カ、一ニ養蠶地方ニ於テ豚ヲ廢シ朝鮮牛ノ飼養ヲ始メタルモノアリ、今之カ地方別ニ見タル概要左ノ如シ。

(イ) 馬ノ飼養數ヲ減少シタル地方

山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、福井、山梨、静岡、愛知、兵庫、高知、福岡

(ロ) 馬ノ生産ヲ減少シタル地方

高知

(ハ) 其ノ他ノ役肉用牛ノ飼養數ヲ幾分減少シタル地方

新潟、福井、静岡、京都、兵庫、奈良、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡

(ニ) 其ノ他ノ役肉用牛ノ生産ヲ減少シタル地方

山口、香川、高知、福岡

(ホ) 其ノ他ノ役肉用牛ノ生産増加ヲ妨ケタル地方

福島

(ヘ) 其ノ他ノ役肉用牛ノ移出ニ影響シ牛價ヲ低廉ナラシメタル地方

岡山、福島

(ト) 豚ノ飼養數ヲ幾分減少シタル地方

福島、群馬

(チ) 他府縣ニ朝鮮牛ノ移入増加セハ牛馬ノ販路及生産ニ影響ヲ豫想セラルル地方

青森、京都、大分

地方別概況

北海道 該當事項ナシ。

青森 飼養頭數僅少ナル爲直接影響ナシ但本縣産牛馬ノ仕向地ニ朝鮮牛ノ増加ヲ來セハ影響アラム。

岩手 影響ナシ。

宮城 影響ナシ。

秋田 頭數僅少ナル爲大ナル影響ヲ認メス。

山形 馬ノ飼養ニハ幾分ノ影響アルモ大ナル頭數ニ及ホスカ如キコトナク其ノ他ニハ影響ナシ。

福島 馬ノ使役育成地ニ於テハ其ノ利用範圍ヲ侵害サレ又養蠶地方ニ於ケル採肥用トシテ飼養セル豚ハ漸次朝鮮牛ニ代リツツアリ。

茨城 馬ノ飼養數ニ多少減少ノ傾向アルモ牛ノ増加ニ比シ馬ノ減少著シカラス、從來乳牛ヲ使役用ニ供シタル關係上朝鮮牛ノ移入以後乳牛ノ増加尠シ。

栃木 馬匹繫養困難ナル中以下ノ農家ニ朝鮮牛ヲ飼養スル爲特記スヘキ影響ナキモ幾分馬ノ代用トナス傾向アリ。

群馬 馬匹ノ使役地帯ニアリテハ相當ノ影響ヲ及ホシ逐年馬ノ飼養頭數ヲ減少シタルト、豚ノ飼養頭數僅ニ減少シタル地方アルモ其ノ他ニハ影響ナシ。

埼玉 馬匹ノ飼養頭數ヲ逐年減少シツツアルモ特ニ朝鮮牛ニ依ル影響トハ認め難シ。

千葉 牛ニ於テハ特記スヘキ影響ナキモ所有馬匹ヲ賣却シ朝鮮牛ヲ購入スル爲年々九百餘頭ノ馬匹ノ減少ヲ來セリ、但生産頭數ニハ兩者影響ナシ。

東京 朝鮮牛飼養カ乳牛飼養ノ動機トナリタルノ實例多ク馬ノ飼養漸次減少ノ傾向アリ。

神奈川 採肥、育成目的ノ牡牛又ハ豚ヲ飼養スル者、使役スルコト少キ馬ノ飼養者及搾乳ノ便ヲ有セサル乳牛飼養者等カ朝鮮牛ト交換飼養シタルモノアルカ如キモ概シテ從來ノ無畜農家ニ普及シツツアルヲ以テ將來大ナル影響ナキ見込ナリ。

新潟 乳用牛ヲ除ク牛及馬ノ飼養數ヲ減少シ朝鮮牛ヲ以テ之ニ代フルノ傾向著シ。

富山 飼養頭數僅少ナル爲影響ヲ認めス、縣内生産家畜ノ販路ニ付テモ同様ナリ。

石川 影響ナシ。

福井 山間部ニ於ケル運搬用改良和種ヲ朝鮮牛ト交換スル傾向アリ、又平坦部ニ於テ貸耕馬商ノ馬匹ヲ幾分減少セリ。

山梨 頭數僅少ナルヲ以テ大ナル影響ナキモ馬ヲ生産セサル中部地方ニハ馬ヲ廢シテ朝鮮牛トナセルモノ尠カラス。

長野 格別ノ影響ナシ。

岐阜 大ナル影響ナシ。

静岡 馬ノ飼養頭數ヲ減少スル傾向アリ、和牛ニ於テモ多少其ノ影響ヲ蒙リタルモノノ如キモ其ノ他ノ家畜ノ生産販賣等ニハ大ナル影響ヲ認めス。

愛知 更ニ影響ヲ認めス。

三重 影響ヲ認めス。

滋賀 飼養頭數僅少ニシテ何等ノ影響ナシ。

京都 現在朝鮮牛ノ大部分ハ役畜トシテノ和牛ニ代リタルモノナリ、未タ其ノ生産ニハ影響ヲ認めサルモ將來朝鮮牛ノ移入飼養増加セハ生産額ノ販路及價格ニ至大ノ影響アラン。

大阪 朝鮮牛ノ比較的安價ニシテ粗食ニ堪ヘ且強健ナルタメ從來ノ但馬系ノ牛ニ代リ其ノ飼養數漸次増加スルニ至リ、他面内地牛ハ育成地又ハ生産地等ノ特殊ノ地方ヲ除キテハ著シク其ノ數ヲ減少セリ。

兵庫 使役地帯ニ於テ使役馬、和牛ノ飼養ヲ著シク減少シタルモ生産地ニハ何等影響ヲ認めス。

奈良

所期ノ畜牛頭數ニ達セス、且生産頭數僅少ナルニ反シ屠殺頭數ハ逐年増加スルタメ朝鮮牛ノ移入ハ畜牛不足補充ノ現況ニアルヲ以テ唯地方ニヨリ和牛飼養數ヲ幾分減少セリ。

和歌山

農家ニ於テハ朝鮮牛ノ如キ褐色ノ被毛ヲ極メテ嫌忌スルヲ以テ其ノ數多カラス、現況ヲ以テハ著シキ影響ナシ。

鳥取

該當事項ナシ。

島根

影響ナシ。

岡山

近年各府縣ニ於ケル朝鮮牛飼養頭數ノ増加ハ本縣産牛ノ移出ニ影響シ未タ頭數ノ減少ハ見サルモ朝鮮牛トノ對抗上自然價格ノ低廉ヲ免レサルモノノ如シ。

廣島

牛ノ生産増加ヲ妨ケ牛價ヲ幾分低廉ナラシメタルハ想像セラレ得ルモ確實ナル數字ノ調査ナシ。

山口

改良和種ノ生産飼養等ニ影響スル所尠カラス、肥體ニ當リテハ改良和種ニ比シ長時日ヲ要シ收支相償ハサルニ依リ半肥ノ上賣却スルモノ多ク爲ニ本縣肥育牛ノ聲價發揚上影響スル所アリ。

徳島

飼養頭數僅少ニシテ大ナル影響ナキモ香川縣ニ隣接セル三好郡ノ一部ノ如キ貸牛スル地方ニ於テハ本牛ヲ賞用スルモノアリテ多少改良和種ノ減少ヲ來セリ、運搬用牛車ニ朝鮮牛ヲ代用スルモノ相當數ニ上レリ。

香川

山間部ニ於ケル役肉牛及乳牛生産地域ニアリテハ特記ス可キ影響ナキモ其ノ他ノ地方ニ在リテハ大正十年以降生産ノ減少ヲ見現時蕃殖ヲ行フ者極メテ稀ナリ。

愛媛

東豫四郡ニ於テ使役ノ關係上改良和種ノ頭數漸次減少スル傾向アル外其ノ他ニハ影響ナシ。

高知

馬ノ飼育生産ハ著シク減少シ且和種ノ數モ次第ニ減少セリ。

福岡

朝鮮種ノ種牡牛二十頭其ノ種付牝牛頭數千四百頭ニ達シ和牛ノ蕃殖及飼養頭數ニ相當減少ヲ來シ、又馬ノ飼養頭數モ幾分減少セリ。

佐賀

特記ス可キ影響ナシ。

長崎

和牛改良統一上多少ノ支障ヲ來セリ。

熊本

該當事項ナシ。

大分

頭數僅少ニシテ何等ノ影響ナキモ將來本縣産牛需要地ニ移入數ノ増加ヲ來セハ縣下産牛改良發達上相當ノ支障ナキヲ保シ難シ。

宮崎

該當事項ナシ。

鹿兒島

該當事項ナシ。

沖縄

該當事項ナシ。

第七 朝鮮牛飼養ニ對スル道府縣其ノ他ノ團體ノ設施並經費豫算

道府縣ニ於テ朝鮮牛ニ對スル特別ノ經費ヲ計上セルハ高知縣カ縣内産朝鮮牛ノ改良増殖ヲ目的トシ畜産組合ニ交付スル購入補助費ヲ有スルノミナルモ、朝鮮牛ヲ含ム一般耕牛ノ購入補助費或ハ優良仔牛ノ育成費ヲ交付シ或ハ朝鮮牛ノ無償貸付ヲ行ヒ或ハ種畜場ニ於テ種付ヲ行フモノ一府五縣アリ。(東京、宮城、茨城、神奈川、靜岡、福岡)

次ニ各種團體中朝鮮牛ニ對シ施設ヲ有スルモノハ主トシテ各級農會ニシテ就中耕牛トシテ和牛ト共ニ朝鮮牛ノ購入補助費ヲ有スルモノ最モ多ク、其ノ他購入斡旋費ヲ有シ或ハ畜力利用ノ指導獎勵ヲ行フモノ等アリ、而シテ此ノ種ノ施設ヲ有スル農會ノ存スル地方ハ一府九縣ヲ算ス。(東京、宮城、山形、福島、茨城、群馬、千葉、神奈川、山梨、福岡)

其ノ外群馬縣ニ於テ畜産組合聯合會ニテ購入斡旋又ハ畜力利用ノ傳習ヲ行ヒ又前記高知縣ニ於ケル畜産組合ニテ縣内産優良朝鮮牛ノ購買ヲ行フモノアリ。

地方別概況

北海道 該當事項ナシ。

青森 該當事項ナシ。

岩手 該當事項ナシ。

宮城 特ニ朝鮮牛ニ對スル該當事項ナキモ耕牛購入ニ對スル本年度豫算下ノ如シ。縣耕牛共同購入補助三千圓、登米

秋田 該當事項ナシ。 郡農會耕牛購入斡旋費五十圓、刈田郡農會肥料及耕牛購入斡旋費百五十圓、牡鹿郡農會耕牛購入斡旋費百圓。

山形 東村山郡農會ニ於テ改良和種及朝鮮種ノ耕牛購入獎勵費ヲ計上セリ。耕牛購入獎勵費二百圓(一頭十圓宛二十頭)

福島 縣ニ於テハ施設ナシ町村農會ニテ共同購入ノ斡旋ヲナセルコトアリ、縣農會ニ於テ畜力利用實演用トシテ朝鮮牛ヲ利用セシコトアルモ特ニ之ニ對スル施設ナシ。

茨城 縣種畜場ニ於テ朝鮮種種牡牛ヲ繫養シ或ハ之ヲ縣内ニ貸付スル外同種牝牛ノ無償貸付ヲ行フ、縣ニ於テハ犁耕技術員ヲ置き地方指導員ヲ養成シ又使役法ヲ傳習セシム、縣農會ハ共同購入ノ斡旋ヲナシ其ノ外郡農會ニ於テ犁耕ノ講習ヲ行ヒ又町村農會ニテ朝鮮牛ヲ購入シ無資力農家ニ貸付スルモノアリ。

栃木 當初朝鮮牛ノ購入ニ對シ縣農會ニ於テ低利資金ノ融通ヲナシタルコトアルモ現在中止セラル、其ノ他ニハ之ニ關スル施設ナシ。

群馬 畜産組合聯合會並各農會ニ於テ購入斡旋、畜力利用講習會ノ開催ヲナセルモ其ノ他ニハ特記ス可キ事項ナシ、本年度ニ於テ購入補助費ヲ計上セルハ一村農會アリ。

埼玉 大正十四年度迄一般ニ役牛及種牡牛購入ニ對シ補助金ヲ交付セリ。 縣農會ニ於テ畜耕獎勵規程ヲ設ケ一般耕牛馬購入ニ對シ補助金ヲ交付シツツアリ、本年度經費九百圓、而シテ朝鮮牛ニ對シテモ之カ適用ヲ認メツツアリ。

東京 府種畜場ニ於テ朝鮮牛ノ肥鹽試驗ヲ行ヒ又之カ無料種付ヲナシ又一郡農會ニテ牛耕競技會ヲ開催シ朝鮮牛購入者ニ補助金ヲ交付セリ。

神奈川 縣ハ一般耕牛ノ共同購入ニ對シ獎勵金ヲ交付ス、郡農會ニ於テ犁耕傳習會、共同購入斡旋等ヲナシツツアルモ之等ハ特ニ經費豫算ヲ有セス、大正十五年度耕牛購入獎勵金豫算額千圓。

新潟 村又ハ部落ニテ朝鮮牛飼養組合ヲ組織セルモノアルモ設立日淺ク規模小ニシテ特記ス可キ事項ナシ。

富山 該當事項ナシ。

石川 該當事項ナシ。

福井 該當事項ナシ。

山梨 縣ニ於ケル施設ナキモ縣農會ニ於テ大正十二年以來購入斡旋、購入獎勵金ノ交付、牛耕傳習會、競犁會等ヲ行ヒツツアリ、大正十五年度購入獎勵金豫算額五百圓、(一頭五圓宛。)

長野 該當事項ナシ。

岐阜 該當事項ナシ。

靜岡 縣ハ畜力利用ノ普及ヲ圖ラムカ爲役畜利用獎勵費ノ豫算ノ範圍内ニテ朝鮮牛ニモ購入獎勵金ヲ交付シツツアリ、大正十四年度經費二千圓、(一頭五圓宛。)

愛知 該當事項ナシ。

三重 該當事項ナシ。

滋賀 該當事項ナシ。

京都 該當事項ナシ。

大阪 該當事項ナシ。

兵庫 該當事項ナシ。

奈良 該當事項ナシ。

和歌山 該當事項ナシ。

鳥取 該當事項ナシ。

島根 郡畜産組合ニテ朝鮮牛ニ對シ登録料一頭五圓宛徴收スルモノアルモ其ノ他ニハ施設ヲナスモノナシ。

岡山 該當事項ナシ。

廣島 該當事項ナシ。

山口 該當事項ナシ。

徳島 該當事項ナシ。

香川 該當事項ナシ。

愛媛 該當事項ナシ。

高知 縣ハ縣内産朝鮮牛ノ優良ナルモノヲ安藝及長岡兩郡畜産組合ニ購入セシメ牡牛ハ六割以内、牝牛ハ五割以内ノ購入費補助ヲナシ此ノ經費一ケ年千圓内外ナリ。

福岡

縣ハ一般畜産獎勵費ヨリ粕屋及宗像兩郡農會ニ對シ朝鮮種種牡牛購入費及同優良仔牛育成費補助金ヲ左ノ如ク交付シ又粕屋、宗像及鞍手ノ各郡農會ニ於テ合計二十頭ノ朝鮮種種牡牛ヲ有シ其ノ管理費トシテ一頭六十圓宛計上セリ。

年次	郡別	種牡牛購入費補助	仔牛育成費補助
大正十四年	粕屋	二百四十九圓(二頭分)	百八十圓(六頭分)
大正十四年	宗像	百五十圓(二頭分)	九十圓(一頭分)

- 佐賀 該當事項ナシ。
- 長崎 該當事項ナシ。
- 熊本 該當事項ナシ。
- 大分 該當事項ナシ。
- 宮崎 該當事項ナシ。
- 鹿兒島 該當事項ナシ。
- 沖繩 該當事項ナシ。

第八 朝鮮牛飼養ノ趨勢並地方當局ノ意見

内地ニ於ケル朝鮮牛飼養ノ趨勢ハ之ヲ全國的ニ觀レハ漸次其ノ數ヲ増加シ其ノ飼養地方亦漸ク廣汎ナラムトス、然レトモ之ヲ地方的ニ觀ルトキハ或ハ將來増加ノ趨勢ヲ示サス或ハ既ニ却テ減少ノ傾向ヲ見ルモノアリ。

而シテ其ノ最モ増加ヲ示シツツアルハ從來馬ノ使役地方ニ於テ馬ニ代ルモノニシテ平坦部ニ於ケル小農家ノ耕牛トシテ飼養セララルモノ之ニ亞ク。

地方當局トシテ將來特ニ本種ノ飼養ヲ獎勵セムトスルモノ九府縣ヲ算スルモ其ノ他ハ多ク特ニ獎勵セムトスルノ意見ヲ有セス或ハ又中ニ改良和種牛ノ獎勵ニヨリテ寧之カ増加ヲ制セムトスルモノ數地方アリ、尙内地ニ於テ朝鮮牛ヲ蕃殖用トシテ積極的ニ獎勵セルハ茨城及高知兩縣アルノミトス。今之カ飼養ノ趨勢及地方當局ノ意見ヲ左ノ數項ニ分チ一括分類シテ掲記スレハ次ノ如シ。

- (イ) 増加ノ趨勢ニアル地方
 福島、山形、茨城、栃木、群馬、埼玉、神奈川、新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、島根、岡山、廣島、山口、徳島、香川
- (ロ) 現況ト差違ナキ見込ノ地方
 青森、岩手、宮城、秋田、東京、三重、愛媛、福岡、長崎、大分
- (ハ) 漸減ノ趨勢ニアル地方

千葉、岐阜、佐賀

(二) 朝鮮牛ノ飼養ヲ獎勵セムトスル地方

茨城、神奈川、埼玉、石川、山梨、静岡、大阪、香川、高知

(ホ) 朝鮮牛ノ飼養ヲ獎勵セサル地方

青森、岩手、千葉、新潟、岡山、長崎

(ハ) 改良和種牛ノ蕃殖ヲ獎勵シ朝鮮牛ノ飼養ヲ制セムトスル地方

岐阜、山口、佐賀

(ト) 朝鮮牛ノ蕃殖ヲ認メサル地方

福島、山形、山梨

(チ) 朝鮮牛ノ蕃殖ヲ認ムル地方

栃木、群馬、埼玉、福岡

(リ) 朝鮮牛ノ蕃殖ヲ積極的ニ獎勵セムトスル地方

茨城、高知

(ヌ) 和牛生産地方ニハ朝鮮牛ノ移入ヲ防止セムトスル地方

兵庫

(ル) 朝鮮牛ノ肥育ヲ獎勵セムトスル地方

栃木、山梨、奈良

地方別概況

北海道

該當事項ナシ。

青森

本縣産役肉用牛ニ優レル點ナク價格モ亦大差ナキヲ以テ將來増加ノ趨勢ヲ認メス、縣ハ縣産役肉用牛ヲ獎勵シツツアリ。

岩手

既往ノ移入ハ好奇の現象ニシテ將來普ク農耕用トシテ使用ヲ見サル可シ。

宮城

農耕用牛トシテハ一般ニ改良和種ヲ歡迎セルタメ朝鮮牛ニ對シテハ、クノ期待ヲ有セス。

秋田

體格倭小力量乏シキ故本縣ノ如ク深耕ヲ要スル地方ニアリテハ將來多數ノ移入ヲ見サル可シ。

山形

朝鮮牛飼育ノ成績ハ相當良好ナルヲ以テ將來一層増加ヲ見ル可シ、但本牛ハ飼牛ニ無經驗ナル農家又ハ草生少キ平野地方ニシテ馬一頭飼育シ得サル農家ニ飼育セシメ其ノ他ハ從來通り改良和種牛ヲ以テスルヲ適當ト認ム、又本牛ノ生産ヲ獎勵スルハ考慮ヲ要スヘシ。

福島

逐年頭數増加ノ傾向アリテ畜力利用上阻止スヘカラサルモ蕃殖用ニ供スルカ如キハ不得策ト認ムルヲ以テ本種種牡牛ノ供用ハ許容セサル方針ナリ。

茨城

増加ノ趨勢ニアリ而シテ單ニ使役用ニ移入スルノミナラス、朝鮮種牝牛ニ改良和種牡牛ヲ配シ蕃殖育成ヲ獎勵シ役肉用牛トシテ能力増進ニ努メムトス。

栃木

肥育ヲ獎勵シ多少蕃殖ヲ試ミルモノアルタメ幾分ノ増加ヲ來サム。

群馬

平坦地方ノ小農家ニ歡迎セララルヲ以テ増加ノ趨勢ニアルモ近時之等農家ハ改良和種ノ更ニ有利ナルヲ悟リ且各種團體ノ該種獎勵ト相俟テ之カ移入増加セルタメ朝鮮牛ノ飼育ニモ相當影響アルモノト認メラル。

埼玉

從來ノ如キ率ヲ以テ増加スルヤ否ヤ不明ナルモ今尙増加ノ趨勢ニアリ、縣ハ朝鮮牛ノミナラス改良和種ノ如キ早熟ニシテ肉量多キモノヲ獎勵セムトス。

千葉

大正十三年頃迄ハ飼養者ニ何等ノ理解ナク購入飼育シ移入増加シツツアリシモ近時漸ク其ノ宣傳ノ實質ニ伴ハサルヲ覺リ移入減少シ飼養頭數漸減ノ趨勢ニアリ、朝鮮牛ハ現今本縣ノ獎勵種ナラサルヲ以テ今後ノ方針ニ付テハ未タ決定シタルモノナシ。

東京

府下ノ朝鮮牛ハ大部分東京市ノ人糞尿ノ搬出及附近農家ノ農産物ノ運搬ニ用ヒラルルモノニシテ、耕用トシテハ却テ乳牛ヲ用フルノ傾向アルヲ以テ上記運搬方法ノ變遷ニヨリ飼育ノ消長アラムモ現況ヨリスレハ將來ノ増加ハ期シ難シ。

神奈川

飼養者ヲ増加シツツアリテ將來五萬頭ニ達セシメ得ル見込ナリ、而シテ之カ爲ニハ畜力利用ノ獎勵、肉牛取引機關ノ設備ノ要ヲ認ム。

新潟

増加ノ趨勢ニアルモ縣トシテハ増殖普及ノ方針ヲ採ラス。

富山

價格低廉粗食ニ耐ヘ温順忍耐力强キタメ漸次増加ノ趨勢ニアリ。

石川

逐年増加ノ傾向ニアリ、縣ニ於テモ使役牛トシテ獎勵スル意嚮ナリ。

福井

性質温順、四肢關節強靱、價格低廉ナルタメ農家ノ耕耘用トシテ將來増加ノ見込ナリ。

山梨

朝鮮牛ハ一般ニ農耕採肥ノミヲ目的トシテ馬ヲ飼育セル農家ニ歡迎セラレツツアリ、縣ハ縣農會ノ施設ヲケ獎勵シツツアルモ今暫ク蕃殖ヲ避ケ使役後特別ナル肥育ヲ施シ賣却ナサシムル様指導セムトス

長野

將來ニ於テハ農事組合等ニ於テ共同飼育ヲナシ各種ノ共同作業ニ使役セムトスル傾向アリ。

岐阜

農家ハ朝鮮牛カ和種牛ニ比シ經濟上不利ナリト自覺セル爲漸次減少スルモノト想像セラル、縣ハ和種牛ヲ獎勵スルヲ適當ナル方法ト認ム。

静岡

馬ノ飼育者ハ逐年減少シ購入價格比較的安價、飼養管理容易ニシテ能率大ナル朝鮮牛ハ漸次之ニ代リツツアリ。

愛知

移入ニ失費少キニ至ラハ從來ノ和牛ヲ朝鮮牛ニ代フルモノ多カル可ク又幾分肥鹽性ヲ附與スルニ於テハ盛ニ蕃殖育成ヲ見ルニ至ル可シ。

三重

飼養頭數殆ト増減ナク増殖獎勵ニ關スル意見ナシ。

滋賀

本縣畜牛ハ肥育ヲ目的トスルモノ多ク肥鹽性ニ乏シキ朝鮮牛ノ増加ハ著シカラサルヘシ。

京都

漸次増加ノ趨勢ナリ、兩丹地方ニハ増加ノ餘地少キモ山城地方ニハ相當増加ス可シ、地方ノ狀況ニヨリ朝鮮牛ノ飼養ハ經濟的ニ有利ナリト信ス。

大阪

逐次増加ノ趨勢ニアリ、朝鮮牛ハ一般ニ價格低廉ニシテ強健特ニ四肢ノ強固ナル點ニ於テハ他ノ役肉用牛ニ優レルタメ縣ハ飼養目的ニ鑑ミ地方ニ依リ獎勵セムトス。

兵庫

内地ニ於ケル役肉用牛ノ生産需要ニ伴ハサル爲、使役地帯ニ於テハ頭數増加ノ趨勢ニアルモ肥臚地方ニアリテハ後軀ノ肉附不良ニシテ肥育ニ長時間ヲ要シ肉質劣レルヲ以テ將來現今ノ朝鮮牛ニテハ満足スルニ至ラサル可シ、縣ハ生産地方ニハ本牛ノ移入ヲ防止セムトス。

奈良

漸次増加ノ趨勢ニアリ、縣ハ單ニ農耕、採肥、運搬ニ供用スルニ止メス屠肉ノ利用上肥臚ノ獎勵ヲナサムトス。運搬用トシテ漸次増加ノ傾向ニアルモ農耕用トシテハ毛色ニ對スル古來ノ風習ノ關係上容易ニ普及ノ見込ナシ。

鳥取

該當事項ナシ。

島根

本縣産牛ニ比シ優良ナル特質ヲ有セサルタメ僅ニ牛馬商ノ巧妙ナル宣傳ニヨリ或ハ平坦地方ニ移入増加ヲ見ルコトアラムモ縣内畜牛ニ對シ影響ナキモノト思考ス。

岡山

朝鮮牛ハ本縣南部ニハ年々増加ノ傾向アレトモ現在農家ノ使役ノ程度必スシモ本牛ニ俟ツノ要ナク又生産増殖肥臚ノ點ハ本縣和種ニ及ハサルヲ以テ縣トシテハ移入獎勵ヲナササル方針ナリ。

廣島

朝鮮牛ハ生産ヲナササル沿海部ニ養ハレ近年移入漸増ノ趨勢ニ在ルモ既ニ同地方ノ役牛ノ需要殆ト充足サレ又其ノ價格内地牛ニ接近セルヲ以テ今後ノ増加ハ極メテ僅少ナル可シ、縣ハ生産不足補充ノ意味ニ於テ移入ヲ認メツツアルモ本縣神石牛ノ種類統一上何等ノ弊害ヲ認メス。

山口

漸増ノ傾向ニアルヲ以テ縣ハ畜産知識ノ普及、畜牛改良組合、生産組合ノ設置、改良和種牝牛ノ増加、優良牝牛及犢ノ保存等適當ナル施設ヲナシテ改良和種ノ増殖ヲ圖ラムトス。

徳島

縣内畜牛ノ需要ハ漸次増加シ生産頭數ヲ以テハ供給不足ニシテ朝鮮牛ノ移入ハ免レサル趨勢ニアリ、隣縣ハ年々多數ノ朝鮮牛ヲ移入スル關係上其ノ隣接地方ニハ年々之カ頭數ヲ増加セリ、朝鮮牛ハ和牛ト各其ノ長所ヲ異ニスルヲ以テ地方ノ農業状態ニヨリ一概ニ移入ヲ制限スル必要ナク又本縣和牛ハ阪神地方ニ於テ肉牛トシテ相當名聲ヲ博シツツアルヲ以テ何等ノ脅威ヲ感セス。

香川

縣内ニ於ケル乳用種ハ餘乳利用乏シク又内國種ハ生産區域狹隘ナル爲朝鮮牛ノ飼養ハ將來益増加スヘシ、縣ハ之カ利用價值ヲ進メ生産ヲ圖ルモノニ對シテハ内國産種牝牛ヲ交配セムトス。

愛媛

朝鮮牛ニ對シテハ何等獎勵施設ヲ行ハス、又増加ノ制限ヲナサス、宇摩郡地方ニ於テハ地勢水利ノ關係上相當増加スル見込ナリ。

高知

朝鮮牛ハ尙増加ノ趨勢ニアリ、縣ハ長年ニ亘リ改良シ來レル同種系縣内産牛ノ改良増殖ヲ圖リ南部平坦地ニ普及セシメ北部山間部ニハ改良和種ヲ獎勵スル方針ナリ。

福岡

最近移入朝鮮牛ノ資質昔日ノ如カラス市價モ向上シ加フルニ牛肺疫ノ關係上其ノ需要著シカラス、一方本縣和牛ノ生産増加ニ伴ヒ朝鮮牛ノ需要減少シツツアルヲ以テ今後大ナル變化ナカラム。

佐賀

朝鮮牛ハ肉牛トシテ有利ナラサル關係上飼養頭數漸減ノ趨勢ニアリ、縣ハ改良和種ノ普及ヲ獎勵シツツアリ。使役地ニ於テ歡迎セラルト雖生産地ニテハ一般ニ褐色毛ヲ嫌忌シ且ツ犢ノ發育不良ナル爲嗜好セラレス、縣

熊本

ニ於テモ其ノ飼養ヲ獎勵セサルヲ以テ將來増加ヲ見サル可シ。該當事項ナシ。

大分

縣内役肉用牛ノ生産豊富ナル爲朝鮮牛ノ飼養ハ將來俄ニ増加ヲ來スコトナカラム、由來本牛ノ内地飼養數ノ増加ハ經濟的關係ニヨルモノナルヲ以テ之カ對策トシテ内地産牛ノ生産費ノ低減ヲ圖ルコト最モ緊要ナリト信ス。

宮崎

該當事項ナシ。

鹿兒島

該當事項ナシ。

沖繩

該當事項ナシ。

附
表

甲 朝鮮牛仕向地別移入頭數最近三箇年比較

廳府縣	大正十二年	大正十三年	大正十四年
北 道	1	1	1
青 森 縣	1	1	1
岩 手 縣	1	1	1
宮 城 縣	1	1	1
秋 田 縣	1	1	1
山 形 縣	1	1	1
福 島 縣	1	1	1
茨 城 縣	1	1	1
枋 木 縣	1	1	1
群 馬 縣	41	131	83
埼 玉 縣	84	124	104
千 葉 縣	157	773	480
東 京 府	2,218	4,538	2,593

宮 大 熊 長 佐 福 高 愛 香 德 山 廣 岡 島 鳥 和

歌

崎 分 本 崎 賀 岡 知 媛 川 島 口 島 山 根 取 山

四一四 | 八七 | 七九 | 六八四 | 五五 | 九、六一三 | 一五、一九五 | 六、九一二 | 一、二三五 | 一三 | |

九四三 | 二〇 | 一三 | 四五四 | 一、六〇四 | 三一 | 一三、七五九 | 一六、〇九三 | 八、一九一 | 一、二五五 | | | 二二

五九

四四七 | 二三四 | 二二 | 一七一 | 七九四 | 一〇〇 | 一一、六七八 | 一一、九六四 | 六、八六二 | 一、一三四 | 二五 | | 二八

奈 兵 大 京 滋 三 愛 靜 岐 長 山 福 石 富 新 神

奈

良 庫 阪 都 賀 重 知 岡 阜 野 梨 井 川 山 湯 川

二四五 | 四、五六一 | 四、八〇四 | 八 | 一三 | | 一一五 | 一五二 | 一二四 | 一〇三 | 三六 | 二二一 | 一三 | 六一 | 二六八 | 二八

四三七 | 五、九〇四 | 四、二〇三 | | 二七 | 四三 | 四〇八 | 二三四 | 四一 | 九〇 | 一一一 | 三八一 | 七 | 六八 | 九二五 | 七四

五八

四四〇 | 四、七〇九 | 四、六二六 | 二二二 | 一三 | 六三 | 三〇二 | 一八八 | 一八 | 三五 | 一三 | 七六四 | 二二九 | 一七〇 | 一、四三一 | 二〇三

滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 島根 岡山 廣島 山口 德島 香川 愛媛 高知

重賀 都賀 阪都 庫阪 良庫 山良 取山 根取 山根 島山 口島 島山 川島 媛川 知媛

三七、六七四
一九、一六八
三二、六〇七
三三、一六一
九九、一九二
一六、二七一
二九、一九九
三九、〇八七
六三、〇五六
九五、八六九
九八、九六九
六五、九四三
三三、八〇三
三七、六六一
四八、八一五
二一、九八七

三五、一六五
一八、四六三
三〇、七四一
二九、九一三
九五、三四八
一五、六三五
二七、六九四
三八、八二九
六二、五三八
九二、〇九七
九七、〇四七
六四、二一七
三三、五四七
三六、〇六五
四七、七七二
二一、三七四

一二八
七七二
九〇三
一九、八六三
三二、六〇三
四、五三五
七一二
五二九
七、四七三
七、六〇二
三四、八七二
二、一四七
二二、三六〇
六、四六五
一一、四〇一

〇・三
四・〇
二・八
五九・九
三二・九
二七・九
一一・四
〇・八
七・九
七・七
五二・九
六・四
六二・一
一三・二
五一・九

〇・四
四・二
二・九
六六・四
三四・二
二九・〇
二・六
〇・九
八・一
七・八
五四・三
六・四
六四・七
一三・五
五三・三

茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 靜岡 愛知

城木 馬玉 葉京 川京 湯川 山湯 川山 井川 梨井 野梨 阜野 愛靜

一一、七九二
二、一七二
五、三〇二
一〇、二一五
二七、六五五
一八、四二六
一三、七〇六
二一、八一七
一、三〇三
六、〇九八
四、九五三
一、七九二
六、二六六
九、七〇〇
一八、二九八
一七、五二二

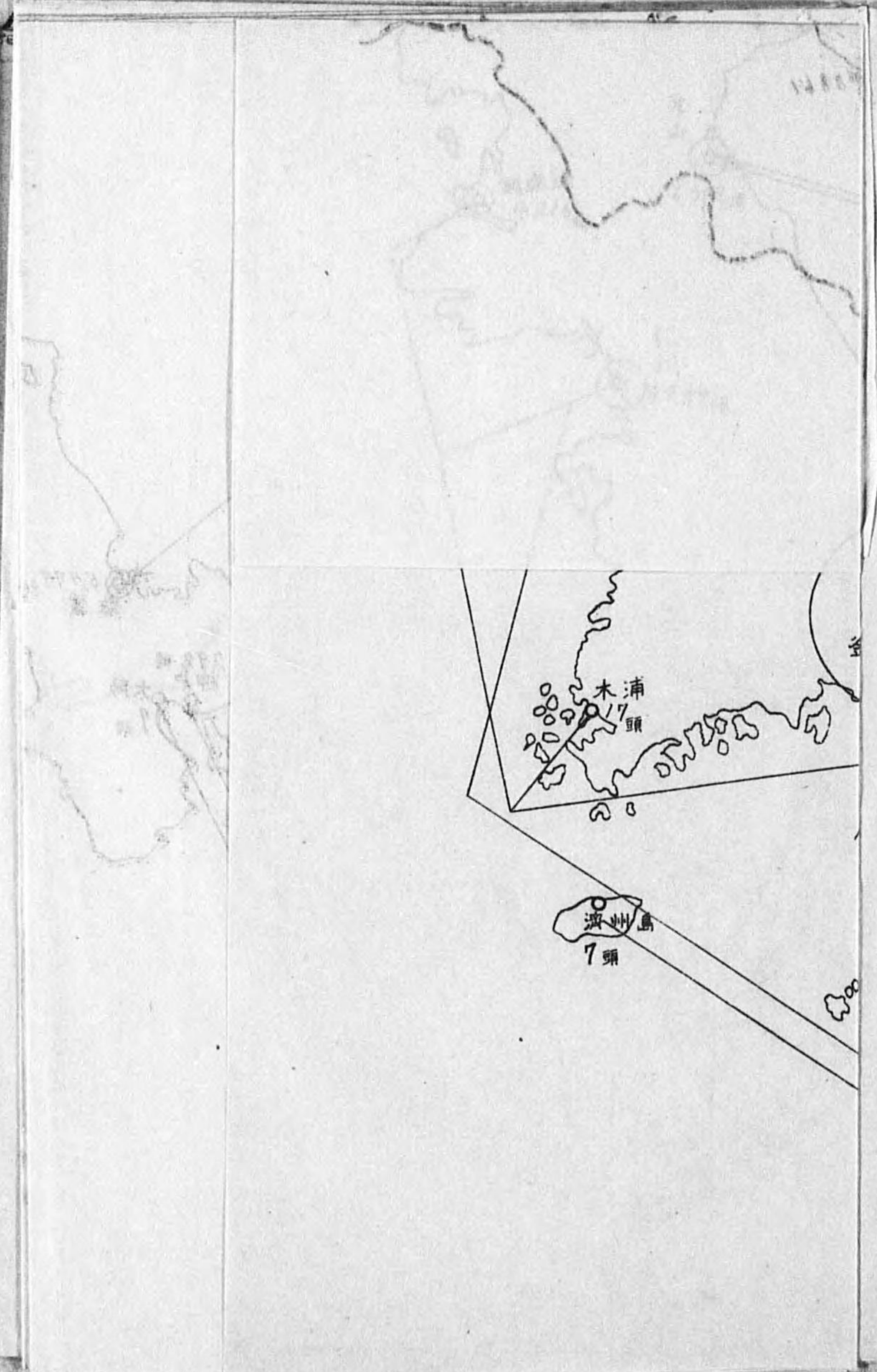
九、一二九
八四〇
一、五二七
八、一九三
一九、〇三五
一二、〇九五
八、八五二
八、七三一
七六六
三、六九二
四、三一二
一、一五四
二、九三五
八、〇八一
一〇、〇一四
一四、一二九

七、九九一
八一二
一、三三一
七、七三〇
四、八五三
六、〇六一
六、六一五
五、〇一一
一七九
二〇五
三〇一
三六一
六八六
一五五
五、一三五
一、七三一

六七・八
三七・四
二五・一
七五・五
一七・五
三二・九
四八・三
二二・〇
一三・八
三・四
六・一
二〇・一
一〇・九
一・六
二六・九
九・八

八七・四
九六・七
八七・二
九四・三
二五・四
五一・一
七四・七
五七・四
二二・四
五・六
七・〇
三一・三
二二・三
一・九
五一・三
一二・三

4.5

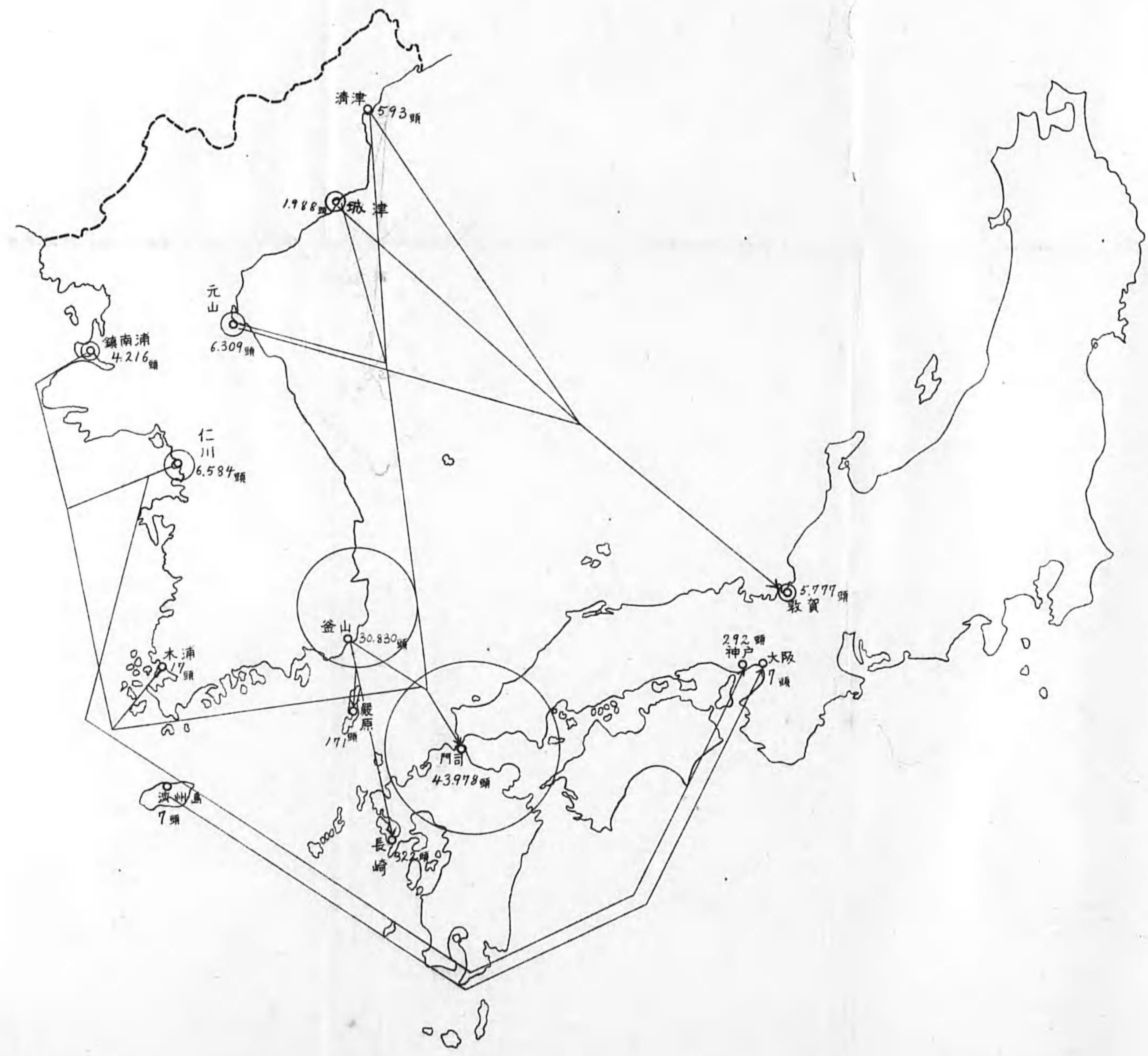


備考 本調査中牛總頭數ハ農林省統計ニ、朝鮮牛頭數ハ地方長官ノ報告ニ依ル。
表中事實無キモノハ「」ヲ附セリ

福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿兒島	沖繩	官有	合計
五七、五三五	二一、七一四	七〇、〇三八	六一、四七三	六八、八一三	二五、七九〇	八三、六五三	三二、三二一	五三五	一、四五九、六五三
五五、五七八	二〇、八二八	六九、〇五〇	六〇、一六五	六八、〇三九	二五、〇九一	八二、二〇〇	三二、〇二四	一、三三七、〇三六	一、三三七、〇三六
七、七二五	三三七	一、二一九	七八二						二一四、三二一
一三・四	一・六	一六・〇	一・二						一四・七
一三・九	一・六	一・六	一・二						一六・〇

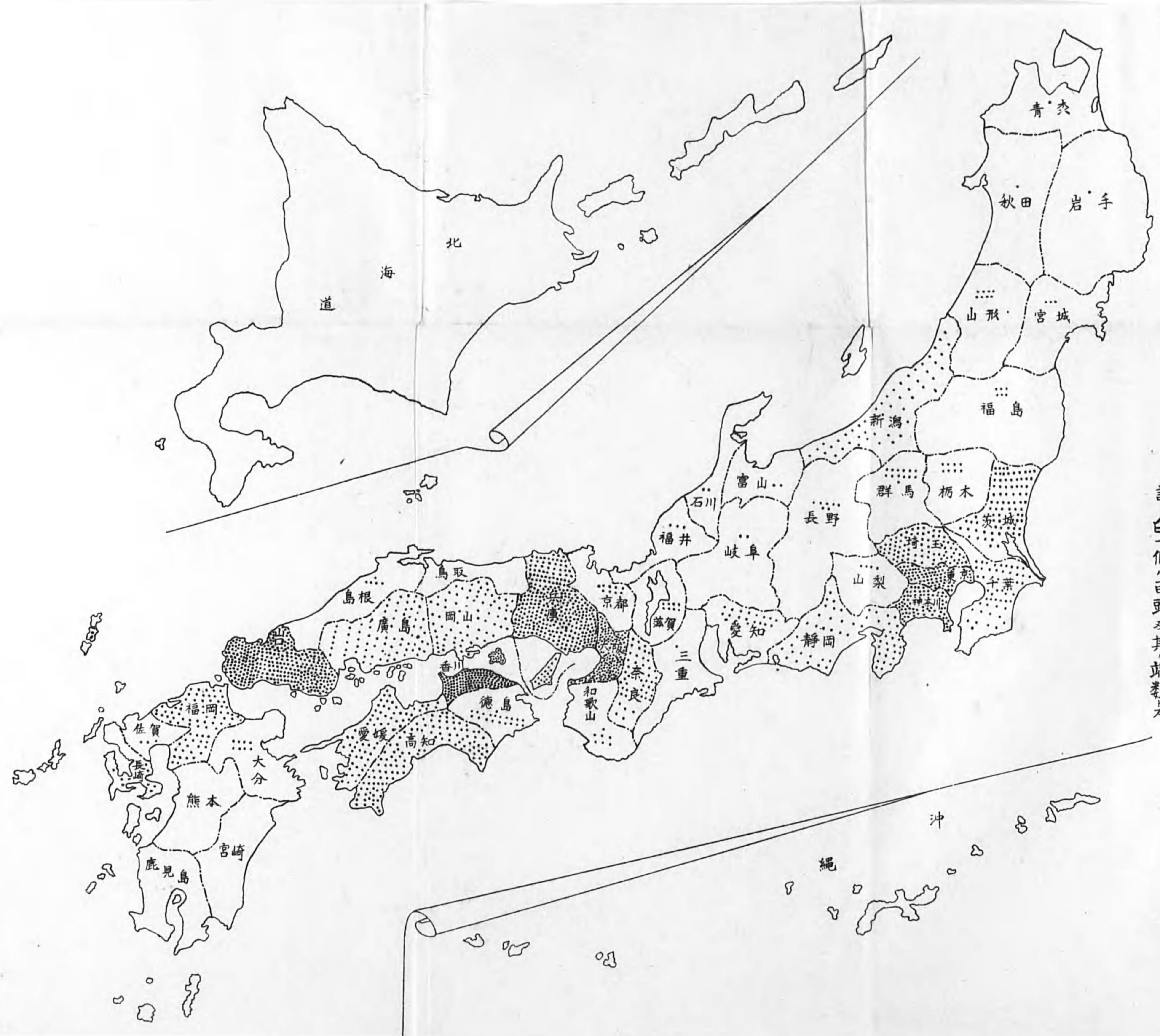
6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 5

大正十四年ニ於ケル移出入港別及仕向地別朝鮮牛頭数乙圖表



丁本邦内地ニ於ケル朝鮮牛ノ分布圖（大正十四年）

註・印一個ハ百頭及其端數トス



4.5
37

昭和二年三月二十七日印刷
昭和二年三月三十日發行

農林省畜産局

印刷者

東京市芝區今入町十番地

飯山俊高

印刷所

東京市芝區今入町十番地

研文社印刷所

障壁牛分佈圖(大正十四年)

註：此圖は畜産課より提供



14.5

187

終